

2020年度版

高等学校美術・工芸教科書

内容解説資料

(別冊)

高校生の美術 1	美 I - 305
高校美術 1	美 I - 302
Art and You 創造の世界へ	美 I - 303
高校生の美術 2	美 II - 304
高校美術 2	美 II - 302
高校生の美術 3	美 III - 304
高校美術 3	美 III - 302
工芸 I	工 I - 301
工芸 II	工 II - 301

- 教科書の題材構成……………P.2～6
- 年間指導計画の作成に当たって……………P.8・9
- 年間指導計画例……………P.10～27
- 観点別教科書の特色……………P.28～45
- 評価についての基本的な考え方……………P.46・47
- 新しい学習指導要領を読む……………P.48
- 高等学校美術・工芸と小・中学校との関連……………P.52

本資料は内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

日文的実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

高校生の美術1 (116-日文・美I-305)

ページ	題材
	オリエンテーション
2・3	美術とは何か
4・5	見る 感じ取る 考える 表す
	絵画
6~9	身近なものを描く
10・11	植物を描く
12・13	視点と表し方
14~17	私の見付けた風景
18~21	人物を描く
22・23	視覚のトリックを生かして
24・25	想像を形に
26~29	日本美術
30~35	浮世絵版画の魅力
36・37	版で表す
38・39	墨表現の可能性
40・41	漫画の表現
42・43	光を捉える
44~50	(絵画・彫刻) 大きさを意識して
51~53	作家探究 レオナルド・ダ・ヴィンチ
	彫刻
54・55	彫刻の魅力
56~59	生命感や存在感を表す
60・61	抽象彫刻で表す
62・63	環境を彩る造形
64・65	祈りの形
	デザイン
66・67	デザインの世界
68・69	私の考えるデザイン
70~73	ポスターで伝える
74・75	サインのデザイン
76・77	イラストレーションの魅力
78・79	キャラクターのデザイン
80・81	生活を彩る模様
82・83	パッケージのデザイン
84・85	暮らしの中の「使う」デザイン
86・87	デザインとテクノロジー
88・89	作家探究 アントニ・ガウディ

ページ	題材
	映像メディア表現
90~93	写真表現
94・95	アニメーションの手法
96・97	映像で伝えるメッセージ
98・99	若冲と今を結ぶ
	資料
100	[美術史]
101・102	西洋の美術
103~106	美術史年表
107~113	西洋の美術
114~120	日本の美術
121・122	近代デザイン史
123・124	映像メディア史
125	[技法・色彩]
126	さまざまな描画材料
127	いろいろな絵の具
128~131	鉛筆デッサン
132・133	水彩画を描く
134・135	油絵を描く
136・137	日本画を描く
138	アクリル絵の具で描く
139	アクリルガッシュ絵の具で描く
140	版画の種類
141	文字の基本
142・143	写真の基礎
144	アニメーションの基礎
145	伝える映像表現
146・147	美の秩序
148~150	色彩
151・152	美術館に行こう
153	これからの私と美術

高校美術1 (116-日文・美I-302)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	道具をつくる
4・5	描かれた世界から
6・7	思考にかたちを与える1
8・9	思考にかたちを与える2
	絵画・彫刻
10・11	表現する手, 表現する心
12・13	身体のかたち
14・15	絵の具を知ろう
16・17	身近なものを描く
18・19	一本の樹
20・21	バベルの塔
22・23	自分を描く, 愛する人を描く
24・25	画家の見る夢
26・27	色と線で見える造形
28・29	風神, 雷神
30・31	巨大と微小
32・33	版画の世界
34・35	さまざまな版画表現
36・37	ミケランジェロと運慶
38・39	彫刻をつくる
40・41	ロン・ミュエクの仕事
	デザイン
42・43	日常に蓄えられた知恵
44~47	色彩の基礎
48・49	配色の魅力
50・51	文字とデザイン
52・53	タイポグラフィ
54・55	シンボルマークとロゴタイプ
56・57	身体とハイテクノロジーの間に
58・59	ウェイ・ショウイング
60・61	現代建築
62・63	「着る」の可能性
64・65	イラストレーションとダイアグラム
	映像メディア表現
66・67	切り取る写真
68・69	動く／止まる, 人体表現
70・71	テクノロジーの進歩とイメージネーションの変遷
72~77	美術史年表・年表解説
78・79	瀬戸内国際芸術祭2010

Art and You 創造の世界へ (116-日文・美I-303)

ページ	題 材
2・3	創造へのいざない
4・5	美術表現の起源
6・7	創造の扉 見つめる 感じる 考える
8・9	私のこだわり
10・11	私へのまなざし
12・13	他者へのまなざし
14・15	描きとめる楽しみ
16・17	対象への思い
18・19	住み慣れた場所で
20・21	光と色彩を求めて
22・23	都市の活気をとらえる
24・25	名画からのインスピレーション
26・27	科学者のまなざし
28・29	人を知る 社会を知る
30・31	創造の道程 探る 求める 究める
32~35	描いて探る
36・37	立体で探る
38・39	ケントリッジのアニメーション
40・41	破壊と創造
42・43	描き続ける情熱
44・45	完成と未完成
46・47	単純化と抽象
48・49	試行錯誤の果てに
50・51	都市空間のドラマ
52・53	デザインのアプローチ
54・55	大地を生み出す
56・57	ウォーホルのアート
58・59	一枚の布から
60・61	瞬間を切り取る
62・63	創造の結実 受け継ぐ 広がる 深まる
64・65	現実の彼方へ
66・67	不思議を読み解く
68・69	写し取られたリアリティ
70・71	アニメーションを楽しむ
72・73	線の美, 墨の美, 色の美
74・75	擬人化の系譜
76・77	心を包む・心を贈る
78・79	メッセージのデザイン
80・81	空間を演出する
82・83	自然との対話
84・85	木と風土
86・87	新たな価値の創造
88・89	意表をつく表現
90・91	自然を舞台に
92・93	時を超える創造
	資料
94	色彩の基礎
95	文字の基礎
96	(美術の流れ1) 日本美術
97	(美術の流れ2) 東洋美術
98	(美術の流れ3) 西洋美術
99	(美術の流れ4) 20世紀美術

高校生の美術2 (116-日文・美Ⅱ-304)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	表現とは何か
	絵画
4・5	絵画の役割と写真の発明
6・7	水のある情景を描く
8・9	大気を感じて描く
10・11	質感を捉えて描く
12・13	人物のイメージや心情を表す
14・15	構想を練って描く
16・17	感覚の冒険
18~21	線と明暗で表す
22~28	(絵画・デザイン) 琳派
30・31	版で表す
32・33	(絵画・彫刻) 生物を空想して表す
	彫刻
34・35	作家探究 高村光太郎
36・37	身近な材料で表す
38・39	石がもつ素材の可能性
	デザイン
40・41	ポスターを考える
42・43	デザインがもたらす統一感
44・45	紙の特性を生かして伝える
46・47	使う人のためのデザイン
48・49	庭園の造形
50・51	感覚に訴えるデザイン
	映像メディア表現
52・53	作家探究 土門 拳
54・55	複数の写真で表す
56・57	アニメーションで伝える
58・59	プロジェクション・マッピング
	資料
29	美術について考える
60	美術の起源
61	アジアの美術
62	現代につながる美術
63	日本の前衛
64・65	テンペラ画を描く
66・67	金箔を使って日本画を描く
68	エッチングで銅版画をつくる
69	シルクスクリーンでTシャツをつくる
70・71	彫刻の技法
72・73	部活動を紹介するチラシのデザイン
74・75	コマ撮りアニメーションの技法
76	紙で立体をつくる
77・78	色彩
79~81	美術を見せる 美術で伝える 美術がつなぐ

高校美術2 (116-日文・美Ⅱ-302)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	美術はどこに向かうのか
4・5	美術はどこに向かうのか
6・7	美術はどこに向かうのか
	絵画・彫刻
8・9	美術とともに生きる
10・11	生きているかたち
12・13	クレーの実験室
14・15	風景の表現と油絵の具
16・17	生きる力——ジャズ
18・19	想像する力
20・21	クリスティーナの世界
22・23	ロスコスタイルの確立
24・25	日本画の表現
26・27	水を表現する
28・29	装飾性と写実性
30・31	祈りを描く
32・33	大地に立つ人の姿
34・35	彫刻になった動物たち
36・37	大聖堂と彫刻
38・39	空を映す巨大彫刻
	デザイン
42・43	HIROSHIMA APPEALS
44・45	希望をかたちに
46・47	機能を考える
48・49	社会と人をつなぐ自転車
50・51	新しい素材がつくる環境
52・53	絵本の工夫
54・55	ツリーハウスの楽しみ
	映像メディア表現
56・57	構築されるイメージの世界
58・59	身の回りのものが歌い出す
60・61	落下する時間
62・63	美術の喜び——サンファールのタロット・ガーデン
40・41	美しい色彩

高校生の美術3 (116-日文・美Ⅲ-304)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	美しいとは何か
4～7	切り取られた風景
	絵画
8・9	興味のあることを描く
10・11	西洋のまなざしとの出会い
12・13	(絵画・彫刻)画家が追い求めたもの
14・15	名画から受けるインスピレーション
16・17	主張する美術
	彫刻
18・19	彫刻と着彩
20・21	ものと場所による表現
22・23	空間に立ち現れるメッセージ
24・25	自然が生み出す美 人がつくりだす美
	デザイン
26・27	情報の視覚化
28・29	デザインを支える技術
30・31	自然をまとう建築
32・33	歌舞伎の装い
	映像メディア表現
34・35	報道写真が写し出すもの
36・37	(映像メディア表現・絵画)空からの視点
38・39	アニメーションの技法
	資料
40・41	文化財の保存と継承
42・43	自分らしさを伝えるポートフォリオ
44・45	いつも隣にある美術

高校美術3 (116-日文・美Ⅲ-302)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	美術に関わるということ
	絵画・彫刻
4・5	美術家 奈良美智
6・7	画家 木下 晋
8・9	版画家 山本容子
10・11	彫刻家 関口光太郎
	デザイン
12・13	グラフィックデザイナー 永井一正
14・15	絵本画家 出久根 育
16・17	プロダクトデザイナー 岩崎一郎
18・19	ファッションデザイナー 皆川 明
20・21	照明デザイナー 面出 薫
22・23	建築家 坂 茂
24・25	植物アーティスト パトリック・ブラン
	映像メディア表現
26・27	写真家 川内倫子
28・29	CMディレクター 中島信也
30・31	美術家 東芋
32・33	アニメーション監督 新海 誠
34・35	修復家 岡 泰央
36・37	染色家 吉岡幸雄
38・39	美術家 森村泰昌
40・41	美術史家 辻 惟雄
42・43	ギャラリスト 小山登美夫

工芸Ⅰ (116-日文・EI-301)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	つくる喜び-生活の中の工芸
4・5	暮らしのかたち
54・55	身近な生活環境と工芸
	観察から表現へ
6・7	生活を観察する
8・9	美しい造形へ-美の秩序について
10・11	観察と平面表現
12・13	観察と立体表現
	考える
14	考える-ものづくりのデザインについて
14	考え、話し合い、案を明確にする
14	アイデアスケッチをする
15	検討用模型をつくる
16	レンダリング
16	CG表現
16	図面
17	プレゼンテーション
	造形の知識-機能・構造
18・19	機能と造形
20・21	にぎる-手と道具
22・23	つつむ-守る形
24・25	構造と造形
26・27	すわる-身体を支える
28・29	あかり-ライティングデザイン
	造形の知識-成形・色彩
30・31	さまざまな成形
32・33	つくる技術
34・35	材料の魅力
36・37	テクスチャー
38	色彩について
38	色彩と造形表現
39	色の体系
40	色の調和と働き
41	日本の伝統色
	つくる-材料・技法演習
42・43	木でつくる
44・45	金属でつくる
46・47	七宝でつくる
48・49	土でつくる
50・51	編む
52・53	染める

工芸Ⅱ (116-日文・EII-301)

ページ	題 材
	オリエンテーション
2・3	場をつくる-社会に広がる工芸
4・5	人を思うかたち
6・7	自然に学ぶ
54・55	工房体験
	生活シーンごとに
8・9	ベンチをデザインする (演習)
10~13	遊 動くおもちゃの制作 (演習)
14・15	食 ろくろによる鉢の制作 (演習)
16・17	食 醤油差し, ソース入れをデザインする (演習)
18・19	住 家族が集うテーブルをデザインする (演習)
20	住 図法
21	住 図法
22・23	装 革でバッグをつくる (演習)
24・25	装 友人や家族に送るペンダントの制作 (演習)
26・27	装 織物でコースターをつくる (演習)
28・29	伝
	材料特性を知る
30・31	木
32・33	金属
34・35	土・石・ガラス
36・37	プラスチックと新素材
	資料 産業と工芸の歩み
38~41	近代デザインの変遷
42・43	椅子の変遷
44・45	社会の変化と量産化される工芸
	資料 暮らしと伝統的な工芸
46・47	世界
48・49	アジア
50・51	アジアの伝統的な工芸品マップ
52・53	日本の伝統的な工芸品マップ

日文の高校美術・工芸 教科書ラインナップ



著作者
村上尚徳
横田 学
安田 淳
中村美知枝
末房貞樹
三井直樹
橋本典久



著作者
村上尚徳
横田 学
安田 淳
中村美知枝
末房貞樹
三井直樹
中野 滋

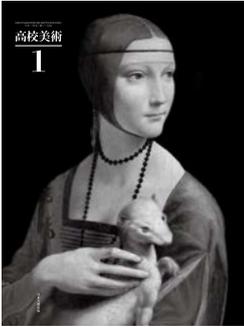


著作者
村上尚徳
横田 学
安田 淳
中村美知枝

高校生の美術1
116-日文
美I-305

高校生の美術2
116-日文
美II-304

高校生の美術3
116-日文
美III-304



監修者
永井一正
木島俊介
著作者
原 研哉
近藤幸夫
末房貞樹
中野 滋
宇野義行
内藤正人
三井直樹
橋本麻里



監修者
永井一正
木島俊介
著作者
原 研哉
近藤幸夫
末房貞樹
中野 滋
宇野義行
内藤正人
三井直樹
橋本麻里

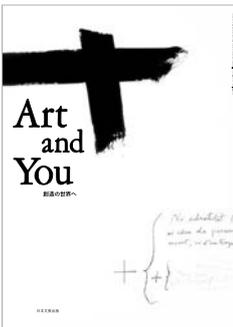


監修者
永井一正
木島俊介
著作者
原 研哉
近藤幸夫
末房貞樹
中野 滋
宇野義行
内藤正人
三井直樹
橋本麻里

高校美術1
116-日文
美I-302

高校美術2
116-日文
美II-302

高校美術3
116-日文
美III-302



著作者
小澤基弘
高須賀昌志
鈴木康広
田島達也



監修者
小松敏明
著作者
長濱雅彦
川野辺洋



監修者
小松敏明
著作者
長濱雅彦
川野辺洋

Art and You 創造の世界へ
116-日文
美I-303

工芸I
116-日文
工I-301

工芸II
116-日文
工II-301

年間指導計画の作成に当たって

芸術科（美術、工芸）では、特に各学校の実態に合わせた年間指導計画の作成が求められている。

ここでは、美術 I を例に、年間指導計画作成の際の考え方について整理する。

1. 美術Iの特質

美術 I という科目は、形や色などの造形による思考力・判断力・表現力を育成することのできる科目であり、ビジュアルなコミュニケーションの能力を育成することのできる科目でもある。

2. ねらいを明確に

しかしながら、美術の授業では何を教えているのか、どのような力を育成しているのかと問われることがある。指導計画を立てる際には、各題材の「ねらい」を明確にし、年間を通して育成したい資質・能力を明確にすることが大切である。

3. 評価規準の設定

「ねらい」を明確にするとは、評価規準を明確にすることでもある。その際には、「A表現」では、「美術への関心・意欲・態度」「発想や構想の能力」「創造的な技能」について、「B鑑賞」では、「美術への関心・意欲・態度」「鑑賞の能力」について評価規準を設けることが求められる。

4. 「発想や構想の能力」を大切に

美術 I の表現活動では、形や色を使って、感情や思考を造形で表すことを求めている。

各々の発想や構想を、表現という形で解決する課題解決学習でもある。「無から有」をつくり出すことを求める科目である。

とすれば、「発想や構想の能力」を育成することが教科の特性として大切なことが理解できる。その「発想や構想」を形にするための土台として「創造的な技能」が大切なことはいままでもない。

5. 美術Iの目標

学習指導要領では、美術 I の目標を「美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。」と示している。

「A表現」及び「B鑑賞」についての幅広い活動を展開し、美術を愛好する心情を育て、美術の諸能力を伸ばし、美術文化の理解を図ることなどをねらいとしている。

「A表現」は、「(1) 絵画・彫刻」、「(2) デザイン」、「(3) 映像メディア表現」の三つの分野から成り立っているが、特に、「(3) 映像メディア表現」において、従前は「伝達」のための表現の能力の育成に重点を置いて示していたが、平成21年の改訂では「伝達」だけでなく、「感じ取ったことや考えたこと」を基にした表現の能力の育成も重視している。

「B鑑賞」は、主体的、積極的に作品などからよさや美しさを感じ取り、批評し合うなどして幅の広い見方を獲得するとともに、日本の美術の特質や、日本及び諸外国の美術文化についての理解を深めることを重視している。

6. 「内容の取扱い」について

学習指導要領では、以下の7点が示されている。

- ① 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、中学校美術科との関連を十分に考慮し、「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図るとともに、「B鑑賞」の指導については、適切かつ十分な授業時数を配当するものとする。
- ② 「A表現」の「(1) 絵画・彫刻」については、生徒の特性、地域や学校の実態を考慮し、絵画と彫刻のいずれか一方を選択して扱うことができる。また、「(2) デザイン」と「(3) 映像メディア表現」については、「(3) 映像メディア表現」において目的や機能などを考えた表現を取り扱う場合、「(2) デザイン」といづれか一方を選択して扱うことができる。
その際、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と、目的や機能などを考えた表現の学習が調和的に行えるようにする。
- ③ 内容の「A表現」の指導に当たっては、スケッチやデッサンなどにより観察力、思考力、描写力などが十分高まるよう配慮するものとする。
- ④ 内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、作品について互いに批評し合う活動などを取り入れるようにする。
- ⑤ 内容の「B鑑賞」については、日本の美術も重視して扱うとともに、アジアの美術などについても扱うようにする。
- ⑥ 美術に関する知的財産権や肖像権などについて配慮し、自己や他者の著作物を尊重する態度の形成を図るようにする。
- ⑦ 事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。

以上のことをふまえ、各学校の実態に合わせて年間指導計画を作成することが大切である。

7. 造形を捉える視点や価値観を育てる

美術の学習を通して、生徒が、造形を捉える視点や価値観を持てるように指導することが大切である。生徒が多様な価値観を学ぶことができるように、年間指導計画には、多様な題材を取り入れたい。

8. 年間指導計画と「高校生の美術1」の構造

年間指導計画を立てる際には、「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」、「目的や機能などを考えた表現」及び、「鑑賞」の各題材を配置しなければならない。使用する教科書の題材構成を上記の3項目に分類して、構造的に整理すると考えやすくなる。整理の際は模造紙に上記3項目の囲みを描き、色つきの付箋などに題材名を書き込んで分類して貼りつけたり、パソコンを利用して視覚的に整理したりすると、直感的に全体像を把握しやすい。

9. 年間指導計画の図示

年間指導計画は、学習指導要領をふまえて学校の実態に応じて作成するが、各題材の領域・分野がバランスよく配置されているかを確認するには、やはり、各題材を色分けして付箋に書き出して貼りつけたり、パソコンを使って図示したりすると分かりやすい。

10. 生徒の経験差や苦手感を「繰り返し」で埋める

短時間題材として「鉛筆や色鉛筆という身近な描画材を使い、ふでばこや靴など普段目にしていない身近なものを単品でスケッチ」したあとに、長時間題材として「校内写生」を組み合わせるなどが考えられる。

生徒の中学校までの経験の差をうめたり、題材に対する苦手感を低くするために有効な方法である。

11. 題材の連続性を考える

題材を配置する際には、学ばせたい力を軸に、学習の流れとして捉え、いくつかの題材を組み合わせることが有効である。

例えば、「絵画制作題材」の前に、絵画の鑑賞や美術史の学習、色彩や描画材の学習をし、その後に絵画制作を行い、制作後には相互鑑賞を行うなどである。

12. 最後に

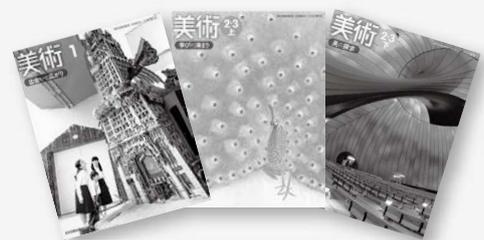
ピクトグラムに代表されるように、ビジュアルによる言語が存在する。色彩が呼び起こす感情もある。また、生活や社会の中には答えが一つではない問題が溢れている。

美術Ⅰは、形や色を使った表現や鑑賞を行う科目であるが、それらの学習を通して、生活や社会の中の造形や美術と豊かに関わる力を育成することが重要である。

小・中・高を通して「図画工作・美術」の教科書をつくっているのは、日文だけ。
これからも「図画工作・美術」を応援します。



小学校図画工作教科書



中学校美術教科書



高等学校美術教科書

高校生の美術 1 (116-日文・美I-305) (長時間)

長時間題材を中心に、鑑賞を大切にしながら各題材を配置した年間指導計画例である。

○は関連する題材のページ、●は資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ		
1 学期	前期	4	1	鑑賞 オリエンテーション 「美術とは何か」	小、中の図工・美術の学習を振り返り、高校の美術Iのイメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。 ○「見る 感じ取る 考える 表す」	2-5,全ページ		
			3	表現 絵画 「身近なものを描く」 ふてぼこを描こう	身近なものを見つめ直し、よさや美しさに気づき、感じ取ったことや考えたことを基に構想を練り、配置や構図を工夫して表現する。 ●「さまざまな描画材料」「鉛筆デッサン」	6-9,126,128-131		
			1	鑑賞 絵画 「視点と表し方」 絵画の魅力を考える	作者の視点に着目して、絵画を魅力的にしているものは何かを表現の意図や工夫を読み取りながら鑑賞し、表現につなげる。 ○「光を捉える」「大きさを意識して」「作家研究 レオナルド・ダ・ヴィンチ」	12-13, 42-53		
	前期	5	11	表現 絵画 「人物を描く」 自分のいる風景を描こう	自己の内面を見つめ、自分らしさとは何かを考え、場面やポーズを工夫して表現する。 ○「想像を形に」「私の見つけた風景」 ●「さまざまな描画材料」「いろいろな絵の具」「水彩画を描く」「日本画を描く」「アクリル絵の具で描く」	14-21,24-25, 126,127,132-138		
				鑑賞 デザイン 「デザインの世界」 デザインの広がりを考える	幅広いデザインの世界や役割を理解し、デザインとは何か、デザインするとき大切なことは何かを考えながら鑑賞し、表現につなげる。 ○「私の考えるデザイン」「サインのデザイン」「キャラクターのデザイン」「生活を彩る模様」「パッケージのデザイン」「暮らしの中の『使う』デザイン」「デザインとテクノロジー」「作家研究 アントニ・ガウディ」 ●「近代デザイン史」	66-69,74-75, 78-89,121-122		
		1	表現 デザイン 「ポスターで伝える」 文化祭ポスターをつくろう (構想)	伝達の効果を考えてイラストレーションや文字を検討し、配置や配色を工夫して、文化祭ポスターを構想する。 ○「イラストレーションの魅力」「キャラクターのデザイン」	70-73,76-79			
		1	表現 デザイン 「色彩、文字、美の秩序などについて学ぶ」	文化祭ポスターを構想するための形や色について学び、制作につなげる。 ●「色彩」「文字の基本」「美の秩序」	141,146-150			
		7	9	表現 デザイン 「ポスターで伝える」 文化祭ポスターつくろう (表現)	ポスターの「伝達」の機能について考え、伝えたい内容が伝わる文化祭ポスターを工夫し、表現する。 ○「イラストレーションの魅力」「キャラクターのデザイン」	70-73,76-79		
	2 学期	前期	8	鑑賞 「美術館に行こう」 夏期課題 美術館レポート新聞をつくろう	美術館の役割や楽しみ方について学び、夏休み中に展覧会、美術館に行き、感想を新聞形式のレポートにまとめ、互いに鑑賞する。	151-152		
				9	2	鑑賞 絵画 「日本美術」 日本の美術の魅力をあじわおう	日本の美術の美意識や自然観などを理解し、表現の方法や形体、題材等に着目し、魅力、広がり、つながりを鑑賞する。 ○「浮世絵版画の魅力」「版で表す」「墨表現の可能性」「漫画の表現」「祈りの形」 ●「日本の美術」「西洋の美術」「美術史年表」	26-41,64-65, 101-106,114-120
					2	表現 映像メディア 表現 「写真表現」 友人に伝えたい校内風景	表したいイメージを基に、友達に伝えたい、校内にある何気ない美しさを、構図や画面構成を考え、光や影の効果などを工夫しながらカメラの特性を生かして表現する。 ●「写真の基礎」	90-93,142-143
		後期	10	11	1	鑑賞 彫刻 「彫刻の魅力」 彫刻の魅力を考える	立体で表わすことよさや特性を理解し、彫刻の魅力と広がりについて鑑賞し、表現につなげる。 ○「祈りの形」「生命感や存在感を表す」「抽象彫刻で表す」「環境を彩る造形」	54-65
13					表現 彫刻 「生命感や存在感を表す」 表情のある手をつくろう	テーマを基に、感情や意味が伝わるような手の表情を構想し、手の構造を考え、表現する。 ○「祈りの形」	56-59,64-65	
12			2	表現 映像メディア 表現 「若冲と今を結ぶ」 映像の広がり可能性を考える	映像の広がり可能性を主眼に鑑賞し、表現につなげる。 ○「映像で伝えるメッセージ」「アニメーションの手法」「視覚のトリックを生かして」 ●「映像メディア史」「伝える映像表現」「アニメーションの基礎」	22-23,94-99, 123-124,145,144		
				12	1	表現 映像メディア 表現 「映像で伝えるメッセージ」 学校案内をつくろう	伝えたい内容を、時間の流れや物語性などの映像表現の特性を生かして表現する。グループに分かれ、話し合いながら、絵コンテを作り、撮影し、編集する。	96-97
3 学期			3	2	鑑賞 映像メディア 表現 「映像で伝えるメッセージ」 学校案内をつくろう (作品鑑賞)	完成した作品を鑑賞し、各グループの意図や工夫を知り、意見を述べ合う。「映像で伝えるメッセージ」の作品などについても批評し合う。	96-97	
		4			表現 絵画 「視覚のトリックを生かして」 だまし絵で表現する	錯視やイメージの重なりなどを生かし、写真と絵画を組み合わせ、不思議な世界を表現する。	22-23	
		2		鑑賞 オリエンテーション 「これからの私と美術」	これからの美術との関わりを考え、「美術とは何か」について1年間の学びとともに振り返る。	153,2-5 全ページ		

高校生の美術 1 (116-日・美I-305) (短時間)

短時間題材や選択できる題材を中心とした年間指導計画例である。

○は関連する題材のページ, ●は資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ	
1 学期	前期	1	鑑賞	オリエンテーション 「美術とは何か」	小, 中の図工・美術の学習を振り返り, 高校の美術Iへのイメージを持ち, 美術の学びの広がりや意味について考える。	2-5, 全ページ	
		3	表現 絵画	「身近なものを描く」 ふてばこを描こう	身近なものを見つめ直し, よさや美しさに気づき, 感じ取ったことや考えたことを基に構想を練り, 配置や構図を工夫して表現する。 ●「さまざまな描画材料」「鉛筆デッサン」	6-9, 126, 128-131	
		4	1	鑑賞 絵画	「視点と表し方」 絵画の魅力を考える	作者の視点に着目して, 絵画を魅力的にしているものは何かを, 表現の意図や工夫を読み取りながら鑑賞し, 表現につなげる。 ○「光を捉える」「大きさを意識して」「作家研究 レオナルド・ダ・ヴィンチ」	12-13, 42-43, 44-50, 51-53
		7	表現 絵画	選択課題 「私の見つけた風景」 学校の風景を描こう	学校の風景をよく観察して, 自分で見つけた場所の魅力を視点や構図, 光と影, 遠近感の表し方を工夫して, 思いを込めて表現する。 ○「光を捉える」 ●「水彩画を描く」「アクリル絵の具で描く」	14-17, 42-43, 132-133, 138	
		7	表現 絵画	選択課題 「植物を描く」 木や植物の魅力を描こう	植物をよく観察して美しさや生命力を感じ取り, 表したいテーマを決めて, 自分の感じた花や木の魅力を表現する。 ○「身近なものを描く」 ●「油絵を描く」「日本画を描く」	6-9, 10-11, 134-137	
		5	1	鑑賞 デザイン	「デザインの世界」 デザインの広がりを考える	幅広いデザインの世界や役割を理解し, デザインとは何か, デザインをするときに大切なことは何かを考えながら鑑賞し, 表現につなげる。 ○「私の考えるデザイン」「サインのデザイン」「キャラクターのデザイン」「生活を彩る模様」「パッケージのデザイン」「暮らしの中の『使う』デザイン」「デザインとテクノロジー」「作家研究 アントニ・ガウディ」 ●「近代デザイン史」	66-69, 74-75, 78-79, 80-89, 121-122
		1	表現 デザイン	「ポスターで伝える」 美の秩序, 色彩, 文字などについて学ぶ	伝えたい内容を, イラストや写真と文字などをどのように組み合わせるかを表現するかを考える。 ●「美の秩序」「色彩」「文字の基本」	73-79, 146-147, 148-150, 141	
	6	6	表現 デザイン	選択課題 「キャラクターのデザイン」 学校のキャラクターをつくる	目的や使われる場面を考え, 性格や造形の特徴を設定し, 親しみのある学校のキャラクターを制作する。	78-79	
	6	6	表現 デザイン	選択課題 「サインのデザイン」 わかりやすい校内案内をデザインする	目的や用いる場所を考え, わかりやすく魅力的な校内案内を制作する。	74-75	
	6	6	表現 デザイン	選択課題 「パッケージのデザイン」 卵のパッケージをデザインする	目的と役割を考え, 材料の特性を生かし, 形や色を工夫して, 美しく機能的な卵のパッケージを制作する。	82-83	
	2	表現 映像メディア 表現	「写真表現」 友人に伝えたい校内風景	表したいイメージを基に, 友達に伝えたい, 校内にある何気ない美しさを, 構図や画面構成を考え, 光や影の効果などを工夫しながらカメラの特性を生かして表現する。 ●「写真の基礎」	90-93, 142-143		
	7	2	鑑賞 映像メディア 表現	「写真表現」 友人に伝えたい校内風景 (作品鑑賞)	構図や画面構成, 光や影の効果などの工夫を読み取りながら, お互いに作品を鑑賞し, 批評する。	90-93	
	7	4	表現 絵画	「視覚のトリックを生かして」 たまし絵で表現する	錯視やイメージの重なりなどを生かし, 写真と絵画を組み合わせ, 不思議な世界を表現する。	22-23	
	2 学期	8	鑑賞	「美術館に行こう」 夏期課題 美術館レポート新聞をつくろう	美術館の役割や楽しみ方について学び, 夏休み中に展覧会, 美術館に行き, 感想を新聞形式のレポートにまとめ, 互いに鑑賞する。	151-152	
9		2	鑑賞 絵画	「日本美術」 日本美術の魅力味わおう	日本の美術の美意識や自然観などを理解し, 表現の方法や形, 題材等に注目し, 魅力, 広がり, つながりを鑑賞する。 ○「浮世絵版画の魅力」「版で表す」「墨表現の可能性」「漫画の表現」「祈りの形」 ●「日本の美術」「西洋の美術」「美術史年表」	26-41, 64-65, 101-102, 107-113, 114-120	
9		4	表現 絵画	「墨表現の可能性」 墨の濃淡で, イメージを表現する	墨の濃淡や筆遣いを工夫して, 対象のイメージ, 色や質感, 空間の広がりなどを感じさせ, 破墨法や積墨法, 筋目描きなどの技法を体験しながら発想を広げ, いろいろなモチーフのイメージを表す。	38-39	
10		4	表現 絵画	「漫画の表現」 4コマ漫画で伝える	漫画の特性を生かし, 心情や情景を効果的に表現し, 4コマ漫画で日常のおかしさや周知したいことなどを表す。	40-41	
11		6	表現 絵画	「版で表す」 消しゴム版画で蔵書印を作ろう	版画による表現のよさや特性を理解し, その効果を生かして, 自分らしさを表した蔵書印を制作し, 教科書に押しなど活用する。 ○「浮世絵版画の魅力」「キャラクターのデザイン」 ●「版画の種類」	30-37, 78-79, 140	
11		1	鑑賞 彫刻	「彫刻の魅力」 彫刻の魅力を考える	立体で表すことよさや特性を理解し, 彫刻の魅力と広がりについて鑑賞し, 表現につなげる。 ○「祈りの形」「生命感や存在感を表す」「抽象彫刻で表す」「環境を彩る造形」	54-65	
12		9	表現 彫刻	選択課題 「生命感や存在感を表す」 煮干し, 豆, 石などを彫り出そう	特徴的な形の面白さをもつ対象を選び, 全体と部分のバランス, ねじれや動勢などを捉え, 自分のイメージと重ね合わせながらモチーフの魅力的な部分を彫り出し, 彩色して生命感や存在感を表す。	56-59	
3 学期		1	2	鑑賞 映像メディア 表現	「若冲と今を結ぶ」 映像の広がり可能性を考える	映像の広がり可能性を主眼に鑑賞し, 表現につなげる。 ○「映像で伝えるメッセージ」「アニメーションの手法」「視覚のトリックを生かして」 ●「映像メディア史」「伝える映像表現」「アニメーションの基礎」	22-23, 94-99, 123-124, 145, 144
		2	10	表現 映像メディア 表現	「アニメーションの手法」 切り紙アニメーションをつくろう	形や場面の变化, 動きや効果などを生かして, ストーリーを考え, キャラクターのパーツや場面に応じた背景をつくり, 組み合わせを工夫しながら, 動画のよさを生かしたテーマを基にアニメーションを制作する。	94-95
		3	2	鑑賞 映像メディア 表現	「アニメーションの手法」 切り紙アニメーションをつくろう (作品鑑賞)	形の変化の表し方や不思議な背景の作り方など, アニメーションの特性を生かした表現の工夫を読み取りながら, お互いに作品を鑑賞し, 批評する。	94-95
	3	2	鑑賞	オリエンテーション 「これからの私と美術」	これからの美術との関わりを考え, 「美術とは何か」について1年間の学びとともに振り返る。	153, 2-5 全ページ	

※この見開きに表記した題材名は, 関連する教科書の題材の「ねらい」を基に独自に設定した例で, 教科書の目次にある題材名とは異なっている。

高校美術 1 (116-日文・美I-302) (3学期制)

学期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ
1 学 期	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	「美術I」の学習で学ぶこと。授業を受ける時の注意。準備するもの。	全ページ
		6	(デザイン) 色彩の基礎と配色と調和	色彩について基本的事項を学ぶ。色彩調和や対比についても理解を深める。	44～49
	5	8	(デザイン) シンボルマークとロゴタイプ	「自分」を表現するシンボルマーク（インシヤルマーク可）とロゴタイプを作る。文字と文字、文字とイラストなどを組み合わせて自分らしさを表現する。	50～55
		6	2	(絵画・彫刻) 人物クロッキー	生徒相互がモデルになってクロッキーをする。人物の骨格、重心、バランス、動勢などに注意する。
	7		8	(絵画・彫刻) 親しい人を描く	家族や友人など自分にとって大切な人を描く。家族を描く場合には始めにスケッチをして、そのスケッチを見ながら描く。
	8	夏期課題風景スケッチ 「私の住む町」 自分の住む町の好きな場所、紹介したいところなどをスケッチし提出する。			
2 学 期	9	2	(鑑賞) 日本の絵画	絵巻物や障壁画、水墨画、浮世絵など日本美術における絵画作品を鑑賞する。（近現代絵画も含む。）	4・5,19,22,28～32,34
		8	(絵画・彫刻) 自由模写・名作から学ぶ	日本や西洋の絵画の中から好きな作品を選び、自分の感性に基づいて自由な立場で模写する。	4・5,10～26,28～35,38～41,70・71
	10	10	(絵画・彫刻) 彫塑・友人の頭像をつくる	友人をモデルにして塑像で頭像をつくる。量感、動勢などの表現に注意しながら、塑像の基本的技術を学ぶ。	7,12・13,36～41
		11	2	(鑑賞) 道具のかたち	プロダクトデザインの作例を鑑賞し、人間が作った道具と美について考えたことをレポートにまとめる。また、自分の考えた形をスケッチで表現する。
	12		6	(デザイン) 案内をデザインする。 (ウェイ・ショウイングとダイアグラム)	美術室までの案内、自宅へ帰る道の表示など、自由な発想で標識等を考え、スケッチや写真などによって計画をプレゼンテーションする。 または、移動にかかる時間などをダイアグラムを用いて表現する。
3 学 期	1	4	(鑑賞) 今日の美術	20世紀以降の美術をスライドによって鑑賞する。デザイン、建築、ファッション、各地で開催されているアートフェスティバルなども取り上げる。鑑賞レポートを提出する。	3,8・9,22～27,33～35,40～43,56・57,60・61,66・67,70・71,78・79
		2	10	(映像メディア表現/デザイン) 形を切り取る・瞬間を切り取る	1年間撮り溜めた写真をまとめ、コメントを加え、思い出を記録した写真集を作る。レイアウトやタイポグラフィを考え、本としてまとめる。
	3		2	(鑑賞) 「美術I」の学習のまとめ	「美術1」の学習で制作した作品や、学んだことを整理し、これからの学習につなげる。

高校美術 1 (116-日文・美I-302) (2期制)

期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ	
前期	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	「美術I」の学習について・年間の授業計画・用意する材料や用具。	全ページ	
		4	(絵画・彫刻) 人物デッサン	自分の手, 顔などを鉛筆デッサンし, 人間のからだの形について理解を深める。	7,9,12・13	
	5	2	(絵画・彫刻) 絵の具を知ろう	さまざまな絵の具とその性質について理解する。顔料と展色剤を混ぜて実際に絵の具をつくってみる。	14・15	
		6	(絵画・彫刻) 静物を描く	ビンや器などの器物と果実等を組み合わせて描く。視点や構図を考えて描く。	16・17,35	
	6	6	(絵画・彫刻) 風景を描く(校内風景)	構内の風景を描く。描くことを通して自分の学校に親しみが持てるようにする。普段見過ごしているような何気ない場所にも思わぬ発見があることを理解する。	18~21,35	
	7	6	(映像メディア表現) ぱらぱら漫画をつくる	小さなカード状の紙に, 少しずつ動く絵を連続して描き, ぱらぱら漫画をつくる。アニメーションの原理について理解する。	64,68・69	
	8	夏期課題(美術館見学) 美術館や展覧会等を見学し, 普段の授業ではできない実際の作品を鑑賞する。鑑賞した作品や作家について感想をまとめたレポートを提出する。				
	9	2	(鑑賞) 夏期課題レポートの発表会	夏期課題で提出したレポートを基に, 自分の好きな作家, 作品について発表する。	全ページ	
6		(デザイン) 色彩効果を生かした平面構成	色の三属性, 対比, 配色などについて学び, 色彩効果を生かした平面構成を制作する。	44~49		
後期	10	8	(デザイン) 文化祭ポスターの制作	学校行事のためのポスター制作を通して, 視覚伝達デザインの意味や機能について理解する(レタリング, 色彩, レイアウト等の理解)。作品は文化祭のときに展示する。	44~49	
	11	6	(絵画・彫刻) 夢の世界を描く	想像力を働かせて現実には無い夢の世界を描く。独創的な自分だけの世界が表現ができるようにする。	20・21,24・25,28・29	
		6	(デザイン) リ・デザイン	身近な生活を見つめ直し, 既製の物を新しい見地から捉え直し, 独創的なアイデアが表現できるようにする。実現性があるかどうかは問わない。	42・43,56~59	
	1	4	(鑑賞) 美術とデザインの歴史	スライド等によって, 多くの作例を鑑賞しながら, 美術とデザインの歴史の概要を学ぶ。鑑賞によって理解したことをレポートに書いて提出する。	全ページ	
		2	10	(絵画・彫刻/デザイン) シルクスクリーン版画	単純化した形態を, シルクスクリーン版画で表現する。孔版画の原理を理解する。市販のカッティング法によるシルクスクリーンキットを活用する。	32~35
			2	(鑑賞) 「美術I」の学習のまとめ	1年間の学習を振り返り, 制作した作品や学んだことを整理し, 美術について更に理解が深まるようにする。	全ページ

※この見開きに表記した題材名は, 関連する教科書のページ内容から想定したもので, 教科書の目次にある題材名とは異なっている。

Art and You 創造の世界へ (116-日文・美I-303) (3学期制)

学期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ
1 学 期	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	これからの美術の学習について。 年間の授業計画・用意する材料や用具。	全ページ
	5	4~6	(デザイン) 文字のデザイン	レタリングやタイポグラフィについて、その 効果や美しさについて理解する。(次の 課題のため。)	94・95
			(デザイン) 学園祭や学校のイベントの ポスター	学校の雰囲気や楽しさをどのように伝え るか、構図や色彩、技法を生かして制作。 親しみやすいキャラクターの考案(前題 材を生かして効果的なレタリングをほどこ す。)	74・75,78・79,94・95
	6	2	(鑑賞) 日本美術のエッセンス	日本美術に受け継がれてきた題材、構図、 線の効果、色彩の効果を理解する。(次 の課題のため。)	22・23,72・73
			(絵画・彫刻) 墨と筆で描いてみよう	墨の濃淡やにじみ、筆の速さやかすれ などを体験し、日本画の技法を理解する (前課題で学んだことを作品に生かす。)	22・23,72・73
7	4~6	(鑑賞) オリエンテーション	これからの美術の学習について。 年間の授業計画・用意する材料や用具。	全ページ	
8	夏期課題「あなたの街の美術館」美術館の建築について調べてみよう。 建築の目的と機能がどう結びついているか、美しさと使いやすさを共存させるためにどのような工夫がされているか かを美術館パンフレットやインターネットで調べ、レポートとして提出。				
2 学 期	9	2	(絵画・彫刻) ドローイング 五感を描く	音や温度、匂いや触感などの感覚を自由 にドローイングして表現する。	4・5,32~35
			(絵画・彫刻) 音を形にしてみよう	美しい楽器の音色、風や波の自然の音、 街の騒音など身近な音を粘土を用いて 立体で表現。(前課題のドローイングを 生かしてもよい。)	8,36・37,45,50・51, 62・63,84・85
	11	2	(鑑賞) 表現の拡大	前課題の表現をふまえて、美術家たちは 形体に対してどのようなアプローチをして いるか理解する。	8,26,37,45・46,50・51, 54・55,62・63,66,80・81, 86~91
			(映像メディア表現) 短いアニメーションをつくろう	12コマ、24コマなど短いアニメーションを 制作する。(写真のコマ撮りなどを利用 してもよい。)	38・39,60・61,68~71
	12	4~6	(絵画・彫刻) 人間を描く	短い時間で水彩絵の具やアクリル絵の 具を用いて自画像や友人像を描く。(補 助的な手段として言葉などを書き添えて もよい。)(次課題につなげる。)	10~15,18,41,48・49
3 学 期	1	10~14	(絵画・彫刻) 心の不思議を描き出そう	前課題などを基に心の中の矛盾や葛藤 を表現。オートマティックな手法なども使 い、銅版画やペン画などで制作。	64~67
	2		(鑑賞) 美術の学習のまとめ	1年間を振り返り、美術の楽しさ、難しさ、 作品の背景などを理解する。	全ページ
	3	2	(鑑賞) 美術の学習のまとめ	1年間を振り返り、美術の楽しさ、難しさ、 作品の背景などを理解する。	全ページ

Art and You 創造の世界へ (116-日文・美I-303) (2期制)

期	月	時	題材	指導内容	教科書のページ	
前期	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	これからの美術の学習について。 年間の授業計画・用意する材料や用具。	全ページ	
		2	(絵画・彫刻) ドローイング 友人を描く	プロポーションを正確にとらえるとともに、 立体感を表現する。 観察による描写。(次課題のため。)	11～13,	
	5	10～12	(絵画・彫刻) 友人の頭部をつくる	前課題をふまえ、対象を観察し、粘土を 素材として生き生きとした立体表現をする。	6～8,30・31,44～46, 84・85,88・89	
			6			
	7	10	(デザイン) コンピュータのマウスや携帯 電話のデザイン	機能性とともに使う楽しさにあふれた製 品をデザインする。 発泡スチロールやクレーを用いて、立体 モデルを制作する。	26,28・29,52・53,58・59, 76・77	
	8	夏期課題「テレビCMについて調べてみよう」 印象に残るテレビCMについてインターネットで調べ、レポートとして提出。 伝達手段としての映像の多様性、制作のプロセス、制作の意図を知る。				
	9	2	(鑑賞) 和のデザインを知る	日本美術に受け継がれてきた美意識に ついて理解する。	22～25,42・43,67, 72～77,82～84	
		6	(デザイン) 文字と色彩について知る	レタリングの基礎と色彩の基本について 理解する。(次課題のため。)	78・79,94・95	
後期	10	10～12	(デザイン) 本の表紙をデザインしよう	夏休みの読書感想文などで読んだ本の 表紙をデザインする。 文学作品の内容や世界観を視覚的に表 現する。 レイアウトの大切さを理解する。	78・79,94・95	
			11	2	(絵画・彫刻) ドローイング 日常生活を切り取る	見なれた風景や室内に空間としての面白 さを発見する。(次課題のため。)
	12	10～12	(絵画・彫刻) 水彩で校内を描く	前課題の表現を踏まえて何気ない室内 風景や空間をどのように描くか、色彩や 構図を工夫して表現する。	18～21,47,82・83	
			1			
	2	2	(鑑賞) インスタレーション、空間表現	作者が空間にどのようにアプローチし、美 しいインスタレーションを作り上げるか、ま た、どのような意図があるかを理解する。	52～55,62・63,66, 80・81,86～93	
		4～6	(映像メディア表現) 実写パラパラマンガをつくら う	写真の基本と映像のしくみを理解する。 鑑賞者に楽しさや面白さを伝える「動き」 を表現する。	38・39,60・61,68～71	
	3	2	(鑑賞) 美術の学習のまとめ	1年間を振り返り、美術の楽しさ、難しさ、 作品の背景などを理解する。	全ページ	

※この見開きに表記した題材名は、関連する教科書のページ内容から想定したもので、教科書の目次にある題材名とは異なっている。

高校生の美術 2 (116-日・美Ⅱ-304) (長時間)

長時間教材を中心に、鑑賞を大切にしながら各題材を配置した年間指導計画例である。

○は関連する題材のページ、●は資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題 材	学習内容	教科書ページ	高校生の美術1とのつながり	
1 前期	4	1	鑑賞	オリエンテーション 「表現とは何か」	美術Iを振り返り、美術IIの学習のイメージを持ち、美術の学びの深まりと意味について考える。 ○「表現とは何か」	2・3	「美術とは何か」「見る 感じ取る 考える 表す」	
		2	鑑賞 絵画	「主題と表現の工夫を考える」 絵画の役割と表現の意義を考える	絵画の役割と表現の意義を理解し、主題と表現の工夫を作品から読み取りながら鑑賞し、表現につなげる。 ○「絵画の役割と写真の発明」	4・5	「視点と表し方」	
	8	5	表現 絵画	選択課題 「水のイメージを描く」 水のある情景を描こう	雨上がりや水たまりや校庭の池などの水のある情景をよく観察し、水のイメージを感じ取り、いろいろな感情をこめて豊かに表現する。 ○「水のある情景を描く」 ●「テンペラ画で描く」「金箔を使って日本画を描く」	6・7,64～67	「身近なものを描く」 「植物を描く」 「私の見付けた風景」 「光を捉える」	
				選択課題 「大気のイメージを描く」 大気を感じる情景を描こう	風や雲などの大気による動きや奥行きのある情景をよく観察し、大気のイメージを感じ取り、いろいろな感情をこめて豊かに表現する。 ○「大気を感じて描く」 ●「テンペラ画で描く」「金箔を使って日本画を描く」	8・9,64～67		
	6	6	表現 絵画/彫刻	選択課題 「質感のイメージを描く」 質感を捉えて描こう	果物や器物などの身の回りのものをよく観察し、対象の質感のイメージを感じ取り、いろいろな感情をこめて豊かに表現する。 ○「質感を捉えて描く」 ●「テンペラ画で描く」「金箔を使って日本画を描く」	10・11,64～67	「身近なものを描く」 「植物を描く」 「想像を形に」	
				作家探究 「近代彫刻の歴史と発展を理解する」 近代彫刻の考え方や表現の変化を考える	高村光太郎と光雲、ロダンや萩原守衛などの作品を鑑賞し、日本の近代彫刻の歴史と発展を理解し、彫刻の考え方や表現の変化を学ぶ。 ○「作家探究 高村光太郎」	34・35		「彫刻の魅力」 「生命感や存在感を表す」
	7	8	表現 デザイン	「テーマを生かしたポスターをつくる」 地域の祭りのポスターを描こう	伝えたい内容や伝える相手、与えられた条件などを基に図柄やコピーなどを考え、配置や大きさ、色彩などを工夫して、情報が豊かに伝わる印象的なポスターをつくる。 ○「ポスターを考える」 ●「部活動を紹介するチラシのデザイン」「色彩」	40・41,72・73,77・78	「ポスターで伝える」 「イラストレーションの魅力」 「キャラクターのデザイン」	
				「デザインの工夫を考える」 「行動を促すデザインを考える」 夏期課題 デザインレポートをつくらう	身の回りにある使うものにはどのようなデザインの工夫が施されているのか、また、人間の感性や感覚、経験などを考慮して行動を促すためにどのような工夫が施されているのかを考え、レポートにまとめる。 ○「使う人のためのデザイン」 ○「感覚に訴えるデザイン」	46・47,50・51		「デザインの世界」 「私の考えるデザイン」 「暮らしの中の「使う」デザイン」 「生活を彩る模様」 「パッケージのデザイン」 「デザインとテクノロジー」
	2 後期	9	10	表現 デザイン	デザインレポートを プレゼンテーションしよう	デザインレポートをプレゼンテーションし、互いに鑑賞・評価する。 ○「使う人のためのデザイン」	44・45,76	「パッケージのデザイン」 「暮らしの中の「使う」デザイン」
					選択課題 「紙の特性を生かして伝える」 飛び出すカードをデザインしよう	折る、切る、貼るなどの加工を工夫し、伝えたい内容を効果的に表すカードをデザインする。 ○「紙の特性を生かして伝える」 ●「紙で立体をつくる」		
		11	8	表現 映像メディア表現	作家探究 「1枚の写真の表現力を理解する」 写真の表現力を考える	土門拳の作品を鑑賞し、作品や言葉から、1枚の写真がもつ表現力について理解し、作家と被写体の関係を考える。 ○「作家探究 土門拳」	52・53	「写真表現」
					「組写真で表す」 複数の写真を組み合わせて、 創造的にイメージを表そう	時間の経過や情景の変化、出来事、ある対象の様々な側面、心の中のイメージなどを複数の写真を組み合わせて表現する。 ○「複数の写真で表す」	54・55	「写真表現」
		12	4	鑑賞 絵画・デザイン	「琳派の継承と発展の系譜を理解する」 琳派のよさや特色をあげ、美術文化の 継承と発展について考える	琳派の作品を鑑賞し、その継承と発展の系譜を理解する。琳派の特徴を取り入れた現代のデザインなどの新たな美について考える。 ○「琳派-継承と創造の系譜」	22～28	「日本美術」
					選択課題 「銅版画で表す」 銅版画の特性と効果を生かして表そう	銅版画の技法とその特性を理解し、その効果を生かして静物や風景をモチーフにして制作する。 ○「版で表す」 ●「エッチングで銅版画をつくる」	30・31,68,69	「版で表す」 「浮世絵版画の魅力」
3 後期	2	8	表現 絵画/彫刻	選択課題 「心で捉えたイメージを形と色で表す」 目には見えないイメージを形と色で表そう	抽象表現の多様性を理解し、対象の単純化や線や色面による画面構成などを工夫し、日常の情景から、自分が感じ取ったイメージを色と形で表す。 ○「感覚の冒険」	16・17	「想像を形に」	
				選択課題 「形や色、イメージからつくりだす」 新しい価値や意味をもった作品をつくりだそう	身近にあるものを何かに見立てたり、組み合わせたりして、形や色、イメージなどから発想し、新しい価値や意味をもった作品をつくりだす。 ○「身近な材料で表す」	36・37	「抽象彫刻で表す」 「環境を彩る造形」	
	3	1	鑑賞	オリエンテーション 「美術の働き」 生活の中での美術の働きについて考える	生活や社会の中での様々な美術の働きについて考え、人と人、人ともの、人と社会をつなぐ美術の働きについて考える。 ●「美術を見せる 美術で伝える 美術がなくなる」	79～81	「これからの私と美術」	

高校生の美術 2 (116-日・美Ⅱ-304) (短時間)

短時間題材や選択できる題材を中心とした年間指導計画例である。

○は関連する題材のページ, ●は資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ	高校生の美術Ⅰとのつながり	
1 学期	前期	1	鑑賞	オリエンテーション 「表現とは何か」	美術Ⅰの学習を振り返り、美術Ⅱのイメージを持ち、美術の学びの深まりと意味について考える。 ○「表現とは何か」	2・3	「美術とは何か」「見る 感じ取る 考える 表す」	
		4	1	表現 絵画	「構図を組み立てる」 対象の大きさや形、構図や配色を工夫して構想を練ろう	イメージした情景を描くために、どのように画面の要素を整理し、構図を組み立てたのかを作品から読み取り、スケッチや習作を描いて、作品の構想を練る。 ○「構想を練って描く」	14・15	「視点と表し方」
		6	表現 絵画	「しぐさで内面を描く」 しぐさやポーズを工夫して気持ちを表そう	動きやしぐさ、ポーズや表情などで、人物の内面を表し、気持ちや姿勢のイメージを豊かに表現する。 ○「人物のイメージや心情を表す」 ●「テンペラ画で描く」「金箔を使って日本画を描く」	12・13、64～67	「人物を描く」	
		5	8	表現 デザイン	「文化祭のグッズをデザインする」 文化祭のイメージを表すグッズをデザインしよう	文化祭のイメージの統一感を演出して、効果的に特色や内容を伝えるためのグッズをデザインする。 ○「デザインがもたらす統一感」 ●「部活動を紹介するチラシのデザイン」「紙で立体をつくる」「色彩」	42・43、72～78	「デザインの世界」「私の考えるデザイン」「サインのデザイン」「キャラクターのデザイン」「パッケージのデザイン」
		6	1	鑑賞 彫刻	作家探究 「近代彫刻の歴史と発展を理解する」 近代彫刻の考え方や表現の変化を考える	高村光太郎と光雲、ロダンや萩原守衛などの作品を鑑賞し、日本の近代彫刻の歴史と発展を理解し、彫刻の考え方や表現の変化を学ぶ。 ○「作家探究 高村光太郎」	34・35	「彫刻の魅力」 「生命感や存在感を表す」
		6	表現 彫刻	選択課題 「生命のイメージをつくりだす」 生命のイメージを彫刻で表す	石がもつ素材としての可能性を考え、人物や動物の形を単純化して、生命のイメージを表す抽象形体をつくりだし、表現方法を工夫して表現する。 ○「石がもつ素材の可能性」 ●「彫刻の技法」	38・39、70・71	「彫刻の魅力」 「生命感や存在感を表す」 「抽象彫刻で表す」 「環境を彩る造形」 「祈りの形」	
	7	表現 彫刻	選択課題 「石に思いを込める」 感情のイメージを彫刻で表す	石がもつ素材としての可能性を考え、感情のイメージを表す抽象形体をつくりだし、表現方法を工夫して表現する。 ○「石がもつ素材の可能性」 ●「彫刻の技法」				
	2 学期	前期	4	表現 絵画	「飛び出す世界を表す」 トリックアートで飛び出て見える世界を描こう	紙から飛び出て見える工夫を理解し、表したいイメージを立体的に見える効果を生かして描く。 ○「線と明暗で表す」	18～21	「視覚のトリックを生かして」
			8	鑑賞 デザイン	「デザインの工夫を考える」 「行動を促すデザインを考える」 夏期課題 デザインレポートをつくろう	身の回りにある使うものにはどのようなデザインの工夫が施されているのか、また、人間の感性や感覚、経験などを考慮して行動を促すためにどのような工夫が施されているのかを考え、レポートにまとめる。 ○「使う人のためのデザイン」 ○「感覚に訴えるデザイン」	46・47、50・51	「デザインの世界」 「私の考えるデザイン」 「暮らしの中の「使う」デザイン」 「生活を彩る模様」 「パッケージのデザイン」 「デザインとテクノロジー」
			9	2	表現 デザイン	デザインレポートをプレゼンテーションしよう	デザインレポートをプレゼンテーションし、互いに鑑賞・評価する。 ○「使う人のためのデザイン」	46・47
		後期	6	表現 デザイン	「紙の特性を生かして伝える」 場面が変化するカードをデザインしよう	切り込みと折り畳みを工夫し、場面の変化を効果的に表すカードをデザインする。 ○「紙の特性を生かして伝える」 ●「紙で立体をつくる」	44・45、76	「パッケージのデザイン」 「暮らしの中の「使う」デザイン」
			10	2	鑑賞 絵画・デザイン	「琳派の継承と発展の系譜を理解する」 琳派のよさや特色をあげ、美術文化の継承と発展について考える	琳派の作品を鑑賞し、その継承と発展の系譜を理解する。琳派の特徴を取り入れた現代のデザインなどの新たな美について考える。 ○「琳派-継承と創造の系譜」	22～28
10			2	鑑賞 映像メディア表現	選択課題 「アニメーションの特性を考える」 効果的に表すための演出を考えよう	アニメーションによる広告や宣伝の作品を鑑賞し、内容を印象的かつ効果的に伝える演出の工夫を読み取り、アニメーションの伝達表現の特性やよさについて理解する。○「アニメーションで伝える」	56・57	「アニメーションの手法」 「映像で伝えるメッセージ」
3 学期	前期	11	6	表現 映像メディア表現	選択課題 「プロジェクション・マッピングの可能性を考える」 映像表現の効果や可能性を考えよう	プロジェクション・マッピングの作品を鑑賞し、作者の意図と映像の演出について考え、その効果や可能性を理解する。 ○「プロジェクション・マッピング」	58・59	「若冲と今を結ぶ」
		11	6	表現 映像メディア表現	「組写真で表す」 複数の写真を組み合わせ、創造的にイメージを表そう	時間の経過や情景の変化、出来事、ある対象の様々な側面、心の中のイメージなどを複数の写真を組み合わせで表現する。 ○「複数の写真で表す」	54・55	「写真表現」
		12	8	表現 絵画	選択課題 「銅版画で表す」 銅版画の特性と効果を生かして表そう	銅版画の技法とその特性を理解し、その効果を生かして静物や風景をモチーフにして制作する。 ○「版で表す」 ●「エッチングで銅版画をつくる」	30・31、69	「版で表す」 「浮世絵版画の魅力」
	12	8	表現 絵画	選択課題 「シルクスクリーンで表す」 写真を活用してシルクスクリーンで表そう	シルクスクリーンの技法とその特性を理解し、写真製版の効果を生かして人物や動物をモデルにして制作する。 ○「版で表す」 ●「シルクスクリーンでTシャツをつくる」			
	後期	1	2	鑑賞 デザイン	「庭園の造形を考える」 生活や文化と庭園のかかわりとその働きを考えよう	世界の様々な庭園を鑑賞し、環境をデザインする庭園の目的やテーマについて考え、庭園と生活や文化、社会との関わりについて理解する。 ○「庭園の造形」	48・49	「デザインの世界」
		6	表現 絵画/彫刻	選択課題 「架空の生物を描く」 空想の生物を絵画で表す	動物や器物を擬人化した組み合わせたりして、生物のイメージを空想し、表現方法を工夫して表現する。 ○「生物を空想して表す」	32・33	「身近なものを描く」 「植物を描く」「想像を形に」	
6		2	表現 絵画/彫刻	選択課題 「架空の生物をつくる」 空想の生物を彫刻で表す	動物や器物を擬人化した組み合わせたりして、生物のイメージを空想し、表現方法を工夫して表現する。 ○「生物を空想して表す」 ●「彫刻の技法」	32・33、70・71	「生命感や存在感を表す」 「環境を彩る造形」 「祈りの形」	
後期	8	8	表現 絵画/彫刻	選択課題 「心で捉えたイメージを形と色で表す」 目には見えないイメージを形と色で表そう	抽象表現の多様性を理解し、対象の単純化や線や色面による画面構成などを工夫し、日常の情景から、自分が感じ取ったイメージを色と形で表す。 ○「感覚の冒険」	16・17	「想像を形に」	
	3	1	鑑賞	オリエンテーション 「美術の働き」 生活の中の美術の働きについて考える	身近にあるものを何かに見立てたり、組み合わせたりして、形や色、イメージなどから発想し、新しい価値や意味をもった作品をつくりだす。 ○「身近な材料で表す」	36・37	「抽象彫刻で表す」 「環境を彩る造形」	
	1	1	鑑賞	オリエンテーション 「美術の働き」 生活の中の美術の働きについて考える	生活や社会の中の様々な美術の働きについて考え、人と人、人との、人と社会をつなぐ美術の働きについて考える。 ●「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなぐ」	79～81	「これからの私と美術」	

※この見開きに表記した題材名は、関連する教科書の題材の「ねらい」を基に独自に設定した例で、教科書の目次にある題材名とは異なっている。

高校美術 2 (116-日文・美Ⅱ-302) (3学期制)

学期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ
1 学 期	4	4	授業のための オリエンテーション	「美術Ⅱ」の学習について。 学習内容, 材料用具について。	全ページ
			(鑑賞) 美術はどこへ向うのか —新しい美術の表現	教科書のオリエンテーションの作品を中心 に, さまざまな新しい美術の作品を鑑 賞し理解を深める。	2~7,22・23,38・39, 41,56・57,60~63
	5	6	(絵画・彫刻) 生きているかたち—身近な動 植物を描く	校庭の樹木や草花, 飼っている小動物 などを愛情を込めて生き生きと描く。	8,10・11,24・25,28・29
	6	6	(デザイン) 大切な人に贈るハンカチのデ ザイン	家族や友人など大切な人に, メッセージ を込めて贈るハンカチをデザインする。	40,44・45,52・53
	7	10	(映像メディア表現) 話すアニメーションの制作	教科書を参考に, 五つの母音を発する 顔のイラストレーションを描き, 歌や言葉 に合わせたアニメーションをつくる。	58~61
	8		夏期課題 (鑑賞) 生活の中のデザイン発見	日常使用している容器や用具, 街の中の 標識や看板, 建物, テレビCMや雑誌の 広告など, さまざまなデザインを見つめ直 し, 感想をレポートにまとめる。	42~51,54~57
2 学 期	9	10	(デザイン) 生活の中のデザイン再生— パネルによるプレゼンテーシ ョン	夏期課題で発見した問題を基に, 快適 な生活を過ごすためのデザインの提案を, パネルでプレゼンテーションする。	46~51,54・55
	10	8	(絵画・彫刻) 想像の世界を描く	夢の中の世界など, 現実にはあり得ない 世界をさまざまな表現方法を活用して描く。	9,12・13,18・19
	11				
	12	10	(絵画・彫刻) 立つ人をつくる (塑像)	針金で芯棒をつくり, 粘土を用いて机上 に立つ人物像をつくる。倒れないように バランスを考え形をつくるようにする。	32~37
3 学 期	1	4	(鑑賞) 日本の風土と美術 (西洋美 術作品も対比的に鑑賞する。)	日本の美術作品を鑑賞しそのよさを感じ 取るとともに, 西洋美術と対比して日本の 美術の特質について考える。	14・15,24~31
	2	10	(デザイン) 絵本をつくる	ストーリーや内容を考えて絵本を作る。 ページの展開や表現方法を工夫して自 分のための一冊だけの本をつくる。	16・17,30・31,42~45, 52・53
	3	2	(鑑賞) 「美術Ⅱ」の学習のまとめ	1年間の学習を振り返り, 学んだこと, 制 作した作品等について話し合う。	全ページ

高校美術 2 (116-日文・美Ⅱ-302) (2期制)

期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ
前期	4	2	(鑑賞) オリエンテーション	授業内容や学習方法のガイダンス。 【絵画・彫刻】と【デザイン・映像メディア表現】のどちらかを選択し学習する。	全ページ
		(4)	【絵画・彫刻を選択】 雑草をスケッチする。	校庭や道端の雑草を採取して描く。生き生きとした生命感が表現できるようにする。	10・11,24・25
	5・6・7	(10)	近景と遠景—風景を描く	校庭や近隣の風景を描く。近景と遠景の表現に注意し、空間が表現できるようにする。	14・15,20・21
		(10)	木彫—動物を彫る	木材を彫り、動物をつくる。道具の扱い方に習熟するとともに、安全性にも気を付ける。	34・35
		(8)	【デザイン・映像メディア表現を選択】 色彩構成—美しい色彩	幾何学図形を自由に重ね、色の重なりを併置混合で表現した平面構成を描く。	40～45,52・53
		(10)	大切なものを包む パッケージ・デザイン	自分の大切なものを破損から守り、美しく安全に持ち運べるようなパッケージを考える。	46・47
		(6)	メッセージを伝える ポスターの制作	人々に希望や勇気を伝えるポスターを制作する。訴求力の強い表現を工夫する。	42～45,52・53
	8		夏期課題「私と私の住む町」	普段、見過ごしている自分の街のよいところを発見し、スケッチや写真で表現する。	14・15,20・21,36～39,48・49,54～57,62・63
9	(8)	【絵画・彫刻を選択】 木彫制作の続き 【デザイン・映像メディア表現を選択】 ポスター制作の続き			
後期	10・11・12	(8)	【絵画・彫刻を選択】 好きな「音楽」を描く	自分の好きな音楽をイメージし、表現方法を工夫して、色彩と形で表現する。	12・13,16～19,22・23
		(12)	水や自然現象を描く	水や大気、雨や風などの自然現象をどのように描くか工夫して表現する。	14・15,26～31
		(8)	【デザイン・映像メディア表現を選択】 「住む」デザイン	自分らしい生き方をするための住居や部屋のアイデアを見取り図に描き提案する。	54・55,62・63
		(12)	文字や数字を動かす アニメーション	数字や漢字、好きな英単語などの文字を動かし、文字の意味と動きが同期したアニメーションをつくる。	58～61
	1	4	(鑑賞) 新しい美術の表現	今日の新しい美術を鑑賞し、その表現について理解を深める。	2～9,18・19,22・23,38・39,41,56・57,60～63
		(10)	【絵画・彫刻を選択】 日本画で花を描く	花の写生を基に、日本画を描く。日本の伝統的な技法のよさを理解する。	8,10・11,24～31
	2	(10)	【デザイン・映像メディア表現を選択】 写真集「17歳の私」を作る	1年間撮りためて来た写真をパソコンに取り込み、編集やレイアウトを工夫して写真集をつくる。	2,8・9,54～57
	3	2	(鑑賞) 「美術Ⅱ」の学習のまとめ	制作した作品の展示会などを開き、1年間の学習を顧みる。	全ページ

※本指導計画は学習指導要領「美術Ⅱ」「4内容の取り扱い」(1)に基づき、「絵画・彫刻」と「デザイン」及び「映像メディア表現」のいずれかを選択して学べるよう配慮したものである。

※この見開きに表記した題材名は、関連する教科書のページ内容から想定したもので、教科書の目次にある題材名とは異なっている。

高校生の美術 3 (116-日文・美Ⅲ-304) (分野選択、領域・分野組み合わせ)

絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現のいずれかの分野を年間を通して選択したり、それぞれの領域や分野の題材を組み合わせたりして展開する年間指導計画例である。鑑賞(表現)としている題材は、鑑賞活動をもとに表現活動をする題材例。

○は関連する題材のページ、●は資料ページ。

時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ	高校生の美術2とのつながり	高校生の美術1とのつながり
1	鑑賞	オリエンテーション 「美しいとは何か」	美術Ⅰ・Ⅱの学習を振り返り、美術Ⅲのイメージを持ち、美しさの感じ方の視点について考え、自分の中にある美しさとは何かを確かめる。 ○「美しいとは何か」	2・3	「表現とは何か」	「美術とは何か」「見る 感じ取る 考える 表す」
2	鑑賞	「切り取られた風景」	障子の窓から見える庭園の風景や天井の穴から見える空のそれぞれの色や光の変化などを比較鑑賞し、窓や障子、天井の穴の働きや効果を考え、室内と屋外の関係や見える部分と見えない部分のつながり、空間の役割などについて読み取りながら学ぶ。 ○「切り取られた風景」	4~7	「庭園の造形」	「視点と表し方」
24 右の4題材から1つ選ぶ	表現 絵画	「絵地図を描く」 イメージや情景を基に絵地図で町の魅力を表そう	自分の住んでいる町の特徴を捉え、道路や河川、建造物などを組み合わせて、その土地のよさや面白さに着目して、町の魅力の描き方を工夫し、伝えたいことを表す絵地図を制作する。 ○「興味のあることを描く」	8・9	「水のある風景を描く」「大気を感じて描く」「質感を捉えて描く」「構想を練って描く」	「身近なものを描く」「植物を描く」「私の見つけた風景」「光を捉える」
	鑑賞 (表現) 彫刻	「空間からメッセージを伝える」 空間の構成や要素を生かして表そう	空間全体を作品として捉え、作家の意図や表現の工夫について考え、立体表現の広がりについて理解を深め、教室や廊下などの学校のスペースで、空間全体の構成や要素に着目して、メッセージを伝える作品を制作する。 ○「空間に立ち現れるメッセージ」	22・23	「身近な材料で表す」「庭園の造形」「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく/作品が場をつくり出す」	「抽象彫刻で表す」「環境を彩る造形」
	鑑賞 (表現) デザイン	「自然と人間のかかわり」 自然を取り込んだ建築の工夫を読み取り、人間と自然のかかわり方を考えよう	建築に自然を取り込んだ建物のデザインを鑑賞し、自然の材料と工業的な材料の用い方や自然を感じさせる建築の特徴や工夫を味わい、建築における自然と人間のかかわり方を考え、自然と人間のかかわりに着目して、自然を感じさせるツリーハウスを制作する。 ○「自然をまとう建築」	30・31	「庭園の造形」「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく/作品が場をつくり出す」	「環境を彩る造形」
	表現 映像メディア 表現	「真実を写し出す」 目に見えないものの奥にある真実を写し出すための撮影を工夫して表し、発信しよう	目の前で起きている事実を撮影し、広く世の中に伝える報道写真の役割を理解し、被写体や視覚的な事実を見せるだけではなく、臨場感や問題点などの目には見えない感情や問題意識などの伝え方を考え、見えないものの奥にある真実を写し出すことに着目して、伝えたいテーマを発信する作品を表現する。 ○「報道写真が写し出すもの」	34・35	「作家探究 土門拳」「複数の写真で表す」	「写真表現」
表現 鑑賞	夏期課題	生徒一人一人がそれぞれのテーマに基づいて、作品を制作したり、レポートをまとめたります。				
10 右の5題材から1つ選ぶ	鑑賞 絵画	「画家の心情に迫る」 画家が追い求めた主題や主張、心情を考えよう	画家が追い求めた主題や主張、心情などがどのように作品に込められたのか、モチーフ、画材や技法、構図や配色などを作品から読み取り、画家の個性と作風に見られる独創性を理解する。 ○「画家が追い求めたもの」	12・13	「表現とは何か」「人物のイメージや心情を表す」「構想を練って描く」「線と明暗で表す」	「人物を描く」「想像を形に」
	鑑賞 絵画	「西洋のまなざしとの出会い」 西洋画から学んだ日本の画家の工夫を感じ取る	江戸時代から明治期にかけて西洋画の技法である透視図や明暗で立体感を表す描画方法をどのように作品に取り入れていったのかを理解し、表現の工夫を読み取り、それらの絵のよさを味わう。 ○「西洋のまなざしとの出会い」	10・11	「絵画の役割と写真の発明」「琳派-継承と創造の系譜-」	「日本美術」
	鑑賞 彫刻	「彫刻の色彩」 彫刻の着彩、無着彩のそれぞれのよさや美しさを感じ取る	着彩されている彫刻と無着彩の彫刻のそれぞれのよさや美しさを感じ取り、表現の工夫を読み取り、その効果について考える。 ○「彫刻と着彩」	18・19	「作家探究 高村光太郎」	「彫刻の魅力」「生命感や存在感を表す」
	鑑賞 デザイン	「プロダクトデザインの可能性」 職人の手わざや新しい技術に着目し、デザイナーと社会との関係について考えよう	職人の熟練した手わざに支えられてつくられるものとコンピュータによってデザインされる3Dプリンターなどで成形されたものを比較鑑賞し、プロダクトデザインの可能性を理解し、デザインと社会の関係について考える。 ○「デザインをデザインする技術」	28・29	「使う人のためのデザイン」「感覚に訴えるデザイン」	「デザインの世界」「私の考えるデザイン」「暮らしの中の「使う」デザイン」「パッケージのデザイン」「デザインとテクノロジー」
	鑑賞 映像メディア 表現	「空から風景を見る」 映像メディア表現の可能性を考える	空から眺めた風景を想像して描かれた鳥瞰図と航空機や人工衛星、ドローンなどを用いて空から撮影された作品を比較鑑賞し、絵画表現の表し方の効果と映像メディア表現の可能性を考え、それぞれを生かして表現された作品のよさを味わう。 ○「空からの視点」	36・37	「プロジェクション・マッピング」	「写真表現」
24 右の7題材から1つ選ぶ	鑑賞 (表現) 絵画	「名画から受けるインスピレーション」 作家がインスピレーションを基に作りだしたイメージの世界を読み取り、新しい見方を作りだそう	既存の絵画作品からのインスピレーションを基に作家がどのように創造力を膨らませて新たな価値をつくりだした作品を創造したのか、作品の捉え方や意図を読み取り、表現の工夫について考えながら新しい見方をつくりだす作品を制作する。 ○「名画から受けるインスピレーション」	14・15	「表現とは何か」「絵画の役割と写真の発明」「構想を練って描く」「感覚の冒険」	「美術とは何か」
	鑑賞 (表現) 絵画	「作品からのメッセージ」 作家が作品に込めた主張を考え、メッセージを発信する作品を制作しよう	作家がタイトルやモチーフにどのような意味を含め、どのようなメッセージを発信しようとしたのか、作品と作家の言葉などから読み解き、作家が作品に込めた主張を考え、テーマをもとにメッセージを発信する作品を制作する。 ○「主張する美術」	16・17	「表現とは何か」「絵画の役割と写真の発明」「構想を練って描く」「感覚の冒険」	「美術とは何か」
	表現 彫刻	「ものど場所による表現」 ものど場所がもつ意味や関係について考え、対象を捉え直し、新しい視点で作品をつくらう	これまでの生活体験で認識してきた、ものど場所の関係について、新鮮な視点で対象を捉え直すことで、驚きや新しい発見がもたらされることに気づき、ものど場所との関係が生じさせる感覚について考えながら新しい視点で対象を捉える作品を制作する。 ○「ものど場所による表現」	20・21	「身近な材料で表す」「石がもつ素材の可能性」「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく/作品が場をつくり出す」	「大きさを意識して」
	鑑賞 (表現) 彫刻	「自然の美と人がつくりだす美」 自然が生み出す風景の美と人が手がけた造形の美しさの相違や共通点を読み解き、自然が生み出した美を生かして、新しい風景の美しさを表そう	自然が生み出す風景の美と人が手がけた造形の美しさと比較鑑賞し、相違や共通点を読み解き、美しさの要素について考え、学校の校庭などの屋外のスペースで、自然の美しさを生かしながら自然に手を加えた造形による新しい風景の美しさをつくりだし、表現を工夫して表す。 ○「自然が生み出す美 人がつくりだす美」	24・25	「身近な材料で表す」「石がもつ素材の可能性」「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく/作品が場をつくり出す」	「大きさを意識して」
	表現 デザイン	「情報を視覚化して表す」 伝えたい内容を視覚化して、見やすく分かりやすく表そう	情報を整理し、伝えたい内容を視覚化して、形や色を効果的に用いて見やすく分かりやすく表すためのデザインを工夫し、プレゼンテーションボードを制作する。 ○「情報の視覚化」	26・27	「ポスターを考える」「デザインがもたらす統一感」「紙の特性を生かして伝える」	「デザインの世界」「私の考えるデザイン」「ポスターで伝える」「サインのデザイン」「イラストレーションの魅力」「キャラクターのデザイン」「キャラクターのデザイン」
	鑑賞 (表現) 絵画・デザイン	「歌舞伎を彩る様式美」 歌舞伎の衣装や化粧などから、造形的な工夫や様式美を読み解き、伝統のよさや美しさを生かした衣装をデザインしよう	歌舞伎の衣装や化粧などの様式と役割などを理解し、造形的なよさや美しさを含め、役柄や感情をイメージ豊かに伝えるための視覚的な工夫について考え、伝統のよさや美しさを生かした衣装をデザインする。 ○「歌舞伎の装い」	32・33	「琳派-継承と創造の系譜-」	「日本美術」「祈りの形」
	鑑賞 (表現) 映像メディア 表現	「アニメーションの技法」 アニメーションの技法による表現の違いを理解し、それぞれのよさを味わい、表現効果を生かした作品を制作しよう	連続した絵によるアニメーションと3DCGを用いたアニメーションによる表現の違いを理解し、それぞれのアニメーションの表現効果や作風、制作技法による表現のよさを味わい、アニメーションの表現効果を生かして、ストップモーションアニメーションの作品を制作する。 ○「アニメーションの技法」	38・39	「アニメーションで伝える」	「アニメーションの手法」「映像で伝えるメッセージ」「若冲と今を結ぶ」
8 ※	表現 資料	「自分らしさを伝えるポートフォリオ」 伝えたい内容やコンセプトを考えて制作しよう	これまでの学習を振り返り、自分を見つめ直しながら、伝えたい内容やコンセプトを基に、表現活動や鑑賞活動で身に付けたことなどを整理したりまとめたりして、伝えたい相手や見る人にとって分かりやすいポートフォリオを制作する。 ●「自分らしさを伝えるポートフォリオ」	42・43	「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく」	「これからの私と美術」
	鑑賞 資料	「文化財の保存と継承」 文化財を保存し伝え、新しい価値をつくりだしていくことを考える	人類共有の財産である文化財を未来の文化につなげるための保存と新しい価値をつくりだしていく方法について理解を深め、文化財の保存と継承についてレポートにまとめる。 ●「文化財の保存と継承」	40・41	「琳派-継承と創造の系譜-」「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく」	「美術館に行く」
1	鑑賞	オリエンテーション 「いつも隣にある美術」 日々の生活の中にある美術の存在を見つけていこう	日々の生活の中にある美術の存在を意識し、生活の中での美術の役割や、心豊かに生きることと美術とのかかわりについて考える。 ●「いつも隣にある美術」	44・45	「美術を見せる 美術で伝える 美術がつなく」	「これからの私と美術」

※右の2題材から1つ選ぶ

高校生の美術 3 (116-日文・美Ⅲ-304) (短時間題材)

短時間題材を中心に、鑑賞を大切にしながら各題材を配置した年間指導計画例である。

○は関連する題材のページ、●は資料ページ。

学期	月	時数	領域/分野	題材	学習内容	教科書ページ	高校生の美術2とのつながり	高校生の美術1とのつながり	
1 学期	4 (5)	1	鑑賞	オリエンテーション 「美しいとは何か」	美術Ⅰ・Ⅱの学習を振り返り、美術Ⅲのイメージを持ち、美しさの感じ方の視点について考え、自分の中にある美しさとは何かを確かめる。 ○「美しいとは何か」	2・3	「表現とは何か」	「美術とは何か」「見る感じ取る 考える 表す」	
		2	鑑賞	「切り取られた風景」	障子の窓から見える庭園の風景や天井の穴から見える空のそれぞれの色や光の変化などを比較鑑賞し、窓や障子、天井の穴の働きや効果を考え、室内と屋外の関係や見える部分と見えない部分のつながり、空間の役割などについて読み取りながら学ぶ。 ○「切り取られた風景」	4～7	「庭園の造形」	「視点と表し方」	
	5 (8)	8	表現 絵画	「絵地図を描く」 イメージや情景を基に絵地図で町の魅力を表そう	自分の住んでいる町の特徴を捉え、道路や河川、建造物などを組み合わせ、その土地のよさや面白さを着目して、町の魅力の描き方を工夫し、伝えたいことを表す絵地図を制作する。 ○「興味のあることを描く」	8・9	「水のある風景を描く」「大気を感じて描く」「質感を捉えて描く」「構想を練って描く」	「身近なものを描く」「植物を描く」「私の見つけた風景」「光を捉える」	
		2	鑑賞 彫刻	「彫刻の色彩」 彫刻の着色、無着色のそれぞれのよさや美しさを感じ取る	着色されている彫刻と無着色の彫刻のそれぞれのよさや美しさを感じ取り、表現の工夫を読み取り、その効果について考える。 ○「彫刻と着色」	18・19	「作家探究 高村光太郎」	「彫刻の魅力」「生命感や存在感を表す」	
	6 (8)	8	鑑賞 (表現) 彫刻	「ものど場所による表現」 ものど場所がもつ意味や関係について考え、対象を捉え直し、新しい視点で作品をつくらう	これまでの生活体験で認識してきた、ものど場所の関係について、新鮮な視点で対象を捉え直すことで、驚きや新しい発見がもたらされることに気づき、ものど場所との関係が生じさせる感覚について考える。 ○「ものど場所による表現」	20・21	「身近な材料で表す」「石がもつ素材の可能性」「美術を見せる 美術で伝える 美術が場をつくりだす」	「大きさを意識して」	
		7 (6)	6	鑑賞 デザイン	「自然と人間のかかわり」 自然を取り込んだ建築の工夫を読み取り、人間と自然のかかわり方を考えよう	建築に自然を取り込んだ建物のデザインを鑑賞し、自然の材料と工業的な材料の使い方や自然を感じさせる建築の特徴や工夫を味わい、建築における自然と人間のかかわり方を考え、自然と人間のかかわりに着目して、自然を感じさせるツリーハウスを制作する。 ○「自然をまとう建築」	30・31	「庭園の造形」	「環境を彩る造形」
	前期	8	8	鑑賞 絵画	夏期選択課題 「作家からのメッセージ」 作家が作品に込めた主張を考えよう	作家がタイトルやモチーフにどのような意味を込め、どのようなメッセージを発信しようとしたのか、作品と作家の言葉などから読み解き、作家が作品に込めた主張を考え、レポートにまとめる。 ○「主張する美術」	16・17	「表現とは何か」「絵画の役割と写真の発明」「構想を練って描く」「感覚の冒険」	「想像を形に」
			8	鑑賞 彫刻	夏期選択課題 「自然の美と人がつくりだす美」 自然が生み出した美を生かして、新しい風景の美しさを表す	自然が生み出す風景の美と人が手がけた造形の美しさを比較鑑賞し、相違や共通点を読み解き、美しさの要素について考え、レポートにまとめる。 ○「自然が生み出す美 人がつくりだす美」	24・25		「抽象彫刻で表す」「環境を彩る造形」
8			鑑賞 デザイン	夏期選択課題 「プロダクトデザインの可能性」 職人の手わざや新しい技術に着目し、デザインと社会との関係について考えよう	職人の熟練した手わざに支えられてつくられるものとコンピュータによってデザインされた3Dプリンターなどで成形されたものを比較鑑賞し、プロダクトデザインの可能性を理解し、デザインと社会の関係について考え、レポートにまとめる。 ○「デザインを支える技術」	28・29	「使う人のためのデザイン」「感覚に訴えるデザイン」	「デザインの世界」「私の考えるデザイン」「暮らしの中の「使う」デザイン」「パッケージのデザイン」「デザインとテクノロジー」	
2 学期	9 (6)	4	鑑賞 絵画 彫刻 デザイン	鑑賞レポートを プレゼンテーションしよう	鑑賞レポートをプレゼンテーションし、互いに鑑賞・評価する。				
		10 (7)	10	表現 デザイン	「情報を視覚化して表す」 伝えたい内容を視覚化して、見やすく分かりやすく表そう	情報を整理し、伝えたい内容を視覚化して、形や色を効果的に用いて見やすく分かりやすく表すためのデザインを工夫し、プレゼンテーションボードを制作する。 ○「情報の視覚化」	26・27	「ポスターを考える」「デザインがもたらす統一感」「紙の特性を生かして伝える」	「デザインの世界」「私の考えるデザイン」「ポスターで伝える」「サインのデザイン」「イラストレーションの魅力」「キャラクターのデザイン」「キャラクターのデザイン」
	11 (7)	2	鑑賞 絵画	「西洋のまなざしとの出会い」 西洋画から学んだ日本の画家の工夫を感じ取る	江戸時代から明治期にかけて西洋画の技法である透視図や明暗で立体感を表す描画方法をどのように作品に取り入れていったのかを理解し、表現の工夫を読み取り、それらの絵のよさを味わう。 ○「西洋のまなざしとの出会い」	10・11	「絵画の役割と写真の発明」		
		8	表現 映像メディア 表現	「真実を写し出す」 目に見えないものの奥にある真実を写し出すための撮影を工夫して表し、発信しよう	目の前で起きている事実を撮影し、広く世の中に伝える報道写真の役割を理解し、被写体や視覚的な事実を見せるだけではなく、臨場感や問題点などの目には見えない感情や問題意識などの伝え方を考え、見えるものの奥にある真実を写し出し、発信する。 ○「報道写真が写し出すもの」	34・35	「作家探究 土門拳」「複数の写真で表す」	「写真表現」	
	後 期	12 (6)	2	鑑賞 デザイン	「歌舞伎を彩る様式美」 歌舞伎の衣装や化粧などから、造形的な工夫や様式美を読み解く	歌舞伎の衣装や化粧などの様式と役割などを理解し、造形的なよさや美しさを味わい、役柄や感情をイメージ豊かに伝えるための視覚的な工夫について考える。 ○「歌舞伎の装い」	32・33	「琳派一継承と創造の系譜」	「日本美術」「折りの形」
3 学期		2	鑑賞 映像メディア 表現	「空から風景を見る」 映像メディア表現の可能性を考える	空から眺めた風景を想像して描かれた鳥瞰図と航空機や人工衛星、ドローンなどを用いて空から撮影された作品を比較鑑賞し、絵画表現の表し方の効果と映像メディア表現の可能性を考え、それぞれを生かして表現された作品のよさを味わう。 ○「空からの視点」	36・37	「プロジェクション・マッピング」		
	1 (5) 2 (6)	5	鑑賞 映像メディア 表現	「アニメーションの技法」 アニメーションの技法による表現の違いを理解し、よさを味わおう	連続した絵によるアニメーションと3DCGを用いたアニメーションによる表現の違いを理解し、それぞれのアニメーションの表現効果や作風、制作技法による表現のよさを味わう。 ○「アニメーションの技法」	38・39	「アニメーションで伝える」	「アニメーションの手法」「映像で伝えるメッセージ」「若冲と今を結ぶ」	
	3 (6)	8	表現 資料	選択課題 「自分らしさを伝えるポートフォリオ」 伝えたい内容やコンセプトを考えて制作しよう	これまでの学習を振り返り、自分を見つめ直しながら、伝えたい内容やコンセプトを基に、表現活動や鑑賞活動で身に付けたことなどを整理したりまとめて、伝えたい相手や見る人にとって分かりやすいポートフォリオを制作する。 ●「自分らしさを伝えるポートフォリオ」	42・43	「美術を見せる 美術で伝える 美術が場をつくる」		
	2	鑑賞	オリエンテーション 「いつも隣にある美術」 日々の生活の中にある美術の存在を見つけてみよう	日々の生活の中での美術の存在を意識し、生活の中の美術の役割や、心豊かに生きることと美術とのかかわりについて考える。 ●「いつも隣にある美術」	44・45	「美術を見せる 美術で伝える 美術が場をつくる」	「これからの私と美術」		

※この見開きに表記した題材名は、関連する教科書の題材の「ねらい」を基に独自に設定した例で、教科書の目次にある題材名とは異なっている。

*月の下の()に囲まれた数字はその月の授業時間を想定したものである。

高校美術 3 (116-日文・美Ⅲ-302) (3学期制)

学期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ					
1 学 期	4	2	オリエンテーション	美術Ⅲの学習について 授業内容, 必要な用具, 材料などの説明。	全ページ					
		8	鉛筆による表現(拡大して緻密に描く。) 顔や手など人物の部分 靴や鞆または道具類 植物や動物などから自分の 描きたいものを探す。	モチーフをよく観察し, 拡大して描く。自分で撮影した写真などを利用してよい。 鉛筆の種類を使い分けるなどしてその特性を生かした使い方を工夫する。	6・7,12					
	6	16	以下の3課題のうち一つを選択して制作する。 A. 絵画『心の風景』(F30号) B. デザイン『使ってみたくなる道具』(プレゼンテーション用のボードを作成する。) C. 映像メディア表現『私の時間』(組み写真10枚以上)	A. 絵画『心の風景』 心に浮かぶ心象風景を表現方法を工夫して自由に描く。(F30号以上)	4~9,14・15,30~33					
				B. デザイン『使ってみたくなる道具』 文房具や食器, 照明器具などの器物をデザインする。使いやすく美しい形を探求する。(説明を付したスケッチやイラストで表現する。)	16・17					
				C. 映像メディア表現『私の時間』 日常生活のの何気ない情景を写真で切り取り, 自分の過ごしている時間を表現する。(組写真10枚以上)	26~31,					
	7	2	1学期のまとめ	1学期に制作した作品の合評会。授業を振り返り, まとめと反省を行う。	全ページ					
	8	夏期休暇								
2 学 期	9	4	広がる美術の世界(鑑賞)	教科書及びスライド等を使用して, 今日の美術やデザインのさまざまな作品を鑑賞する。観賞後ワークシートを提出する。	全ページ					
		10 11 12	22	大作に挑む(卒業制作) 以下から1課題を選択する。 A. 絵画(油絵またはアクリル画F50号以上) B. デザイン(パネルB全版) C. 映像メディア表現(他の課題に相当する仕事量のもの) D. 鑑賞(美術史に関するレポート(写真や説明図を加え, 原稿用紙30枚以上))	絵画・彫刻, デザイン, 映像メディア表現, 鑑賞, のそれぞれの分野で生徒が自ら表現したいものを選び, 計画を立て制作に取り組む。 作品のテーマは自由。 最初に発想から完成に至る計画表を作成させ, 必要に応じて中間講評を行う。	全ページ				
							1	卒業制作展の開催 ポスター, 案内状, 目録等の制作, 会場作り, 展示作業	玄関ロビーや階段踊り場など校内の適切な場所で, 授業で制作した作品の展覧会を行う。 案内状やポスターを協同で制作する。	12~15,22・23,42・43
							2	卒業制作展の開催	展示作業を通して, 飾り付けの方法などを学ぶ。	42,43
3 学 期	2	4	美術と職業(鑑賞)	美術に関係する職業について, 教科書を通して理解を深める。取り上げられている専門家の他の作品などをスライドなどで鑑賞する。	全ページ					
		3	2	授業のまとめ	3年間の美術の授業を振り返り, 学んだこと, 学び足りなかったことなどを話し合う。	全ページ				

※本指導計画は生徒が主体的に題材を選択できるようにした計画例である。

高校美術 3 (116-日文・美Ⅲ-302) (2期制)

期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ	
前 期	4	2	オリエンテーション	年間の授業計画, 注意事項, 準備するもの。	全ページ	
		12	【グラフィックデザイン】 「私の好きな言葉」や「自分の信条」をテーマにしてポスターを制作する。(B2パネル使用)	自分の好きな言葉を一つ選び, その言葉をアピールするポスターを制作する。 必要に応じてイラストレーションや写真を使い独創的な表現を心掛けるようにする。	4~9,12~15,26・27,30~33,38~43	
	5	10	【環境デザイン】 「学校をより快適にするためのデザイン」	校舎, 教室, 机や椅子, 制服, 通学路や校内の表示など現在の学校を見つめ直し, どうしたらより快適な空間にすることができるか考え, 自分のアイデアを提案する。実現性は問わないので, 斬新で独創的なアイデアが望まれる。	16~25,36・37,42・43	
						7
	8	夏期休暇				
	9	4	前期課題のつづき		同上	
		2	前期の授業のまとめ (制作した作品の発表会)	前期授業で制作した作品を鑑賞し, 制作の意図などについて発表する。	全ページ	
	後 期	10	26	【新製品開発のためのグループ授業】 「あったらいいな」「こんなもの欲しい」をテーマにして生活に役立つ新しい製品を開発する。(3~4名ずつの班を編成して協同でアイデアを出し合い, 分担して以下の作業を行う。) 新製品のデザインを模型や図で美的に表現する。 企業名や製品名を考えロゴやパッケージをデザインする。 新聞や雑誌広告を考える。 テレビCMを考え絵コンテで表現する。 ディスプレイや店舗のデザインをスケッチで表現する。	普段の生活の中で, こういうものがあつたら便利だ, という製品を考え, アイデアを模型や図で表現し, 必要な説明を加え, わかりやすくプレゼンテーションできるようにする。 対象となる製品は文具や日用品, 家具や乗り物など自由に選ぶ。 架空の企業を立ち上げ, 製品のネーミングを考え, ロゴやパッケージのデザインを行う。 宣伝計画を練り, 新聞や雑誌広告, テレビCM (絵コンテで表示), 店舗のディスプレイなどを考える。 長期間の課題なので, 途中で随時中間講評を行う。	16~25,28~33,42・43
11		発表とまとめ (製品開発授業の発表会)		製品の特徴をアピールするプレゼンテーションをグループごとに行う。	同上	
12		【今日の美術とデザイン】(鑑賞)		今日の新しい美術やデザインの作品をスライドによって鑑賞する。	全ページ	
1		6	反省とまとめ	1年間の学習のまとめを行う。	全ページ	
2		6				
3		2				

※本指導計画は学習指導要領「美術Ⅲ」「4 内容の取り扱い」「(1)内容のAの(1), (2), (3)又はBのうち一つ以上を選択して扱うことができる。」に基づき, 「デザイン」を中心にして計画した例である。

※この見開きに表記した題材名は, 関連する教科書のページ内容から想定したもので, 教科書の目次にある題材名とは異なっている。

工芸 I (116-日文・工I-301) (3学期制)

学期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ	
1 学 期	4	2	【B鑑賞】 創造活動としての工芸	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸Iの学習内容 ・身近な生活環境と工芸 	2～5,54・55	
	5	10	【A表現】【B鑑賞】 観察から表現へ 考える 造形の知識－機能・構造 造形の知識－成形・色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物・人工物の観察 ・観察をもとに平面表現する ・観察をもとに立体表現する ・ものづくりのデザインについて理解する ・機能と造形について ・さまざまな成形や素材と材料について 	6～41	
	6		【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 木でつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・木材の特性を知る ・木のかばんの制作 ・木の持つよさや美しさを理解する ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	42・43	
	7	14		42・43		
	8	夏季休暇課題 2学期の課題の調べ学習				
2 学 期	9	8	【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 金属でつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・金属の特性を知る ・ティースプーンの制作 ・金属素材や技法を理解する ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	44・45	
	10	10	【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 七宝でつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・七宝の特性について理解する ・ブローチの制作 ・材料や技法の特性を知る ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	46・47	
	11		【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 土でつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・人と土とのかかわりを知る ・組み皿の制作 ・各地の産業としての陶芸を知る ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	48・49	
	12	10		48・49		
3 学 期	1	6	【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 編む	<ul style="list-style-type: none"> ・<small>へんそ</small>編組工芸の素材を知る ・<small>とう</small>籐かごの制作 ・編組工芸の特性を理解する ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	50・51	
	2	8	【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 染める	<ul style="list-style-type: none"> ・染めの技法を理解する ・ランチョンマットの制作 ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	52・53	
	3	2	【B鑑賞】 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・創造活動としての工芸への理解を深める ・制作作品や学習内容を整理し、今後の学習につなげる 	全ページ	

工芸 I (116-日文・EI-301) (2期制)

期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ	
前 期	4	2	【B鑑賞】 創造活動としての工芸	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸 I の学習内容 ・身近な生活環境と工芸 	2～5, 54・55	
		12	【A表現】【B鑑賞】 観察から表現へ 考える 造形の知識－機能・構造 造形の知識－成形・色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・自然物・人工物の観察 ・観察をもとに平面表現する ・観察をもとに立体表現する ・ものづくりのデザインについて理解する ・機能と造形について ・さまざまな成形や素材と材料について 	6～13	
	6	12	【A表現】【B鑑賞】 考える－ものづくりの デザイン アイデアスケッチ プレゼンテーション 造形の知識－機能・構造 にぎる－手と道具 つつむ－守る形	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりのデザインについて理解する ・制作のイメージをグループなどで考え、話し合う ・かばんをデザインする ・サラダサーバーの制作 ・パッケージの意味や機能を知る 	14～25	
			7			
	8	夏季課題 美術館，工芸館を見学し，感想をレポートにまとめる				
	9	8	【A表現】【B鑑賞】 すわる－身体を支える あかり－ライティング デザイン 造形の知識－成形・色彩 材料・技術・色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールをデザインする ・成形の原理を知り，技法を理解する ・素材，材料についての知識を高める ・材料の魅力やテクスチャーについて理解する ・色彩について理解を深める 	26～41	
後 期	10	20	【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 木でつくる 金属でつくる 七宝でつくる 土でつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな素材や材料の特性を知る ・日常の生活で使うものや，他者のための作品を考え，制作する ・生活や社会と工芸とのかかわりを知る ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	42～49	
	11					
	12					
	1	14	【A表現】【B鑑賞】 つくる－材料・技法演習 編む 染める	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな素材や材料の特性を知る ・日常の生活で使うものや，他者のための作品を考え，制作する ・生活や社会と工芸とのかかわりを知る ・作品の意図や表現の工夫を感じ取り味わう 	50～53	
	2					
3	2	【B鑑賞】 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・創造活動としての工芸への理解を深める ・制作作品や学習内容を整理し，今後の学習につなげる 	全ページ		

※この見開きに表記した題材名は，関連する教科書のページ内容から想定したもので，教科書の目次にある題材名とは異なっている。

工芸Ⅱ (116-日文・工Ⅱ-301) (3学期制)

期	月	時	題 材	指導内容	教科書のページ
1 学 期	4	2	【B鑑賞】 ■オリエンテーション ・場をつくる—社会に広がる工芸 ・人を思うかたち ・自然に学ぶ ・工房体験	・工芸Ⅱの学習内容 ・生活と工芸のかかわりについて ・生活環境と工芸との調和について —自然から学ぶ ・工芸の伝統と文化について	2～7, 54・55
			【A表現】【B鑑賞】 ■生活シーンごとに ・ベンチをデザインする ■生活シーンごとに「遊」 ・動くおもちゃの制作 【題材は選択して扱う】	・生活の中での遊びを観察し、工芸とのかかわりを考える ・観察をもとに自由に発想する ・スケッチや試作などから構想をまとめる ・構想に基づいて材料や用具を選択し制作する	8～13
	7	14	【A表現】【B鑑賞】 ■生活シーンごとに「食」 ・ろくろによる鉢の制作 <small>しょうゆ</small> ・醤油差し、ソース入れをデザインする 【題材は選択して扱う】	・生活空間を観察し、使う人や場などを考え発想する ・企画書、制作図などから構想をまとめる ・計画にもとづいて適切な手順や技法を使って制作する	14～17
			8	夏季休暇課題 生活の中での工芸の働きについて調べ、レポートにまとめる	
2 学 期	9	8	【A表現】【B鑑賞】 ■生活シーンごとに「住」 ・家族が集うテーブルをデザインする	・生活と住居について調べる ・集う場のあり方を考え、発想する ・構想をもとにして、テーブルをデザインする	18～21
			【A表現】【B鑑賞】 ■生活シーンごとに「装」 ・革でバッグをつくる	・地域ごとに異なる美意識や装いについて調べ発想する ・スケッチや試作などから構想をまとめる ・材料や用具を吟味し制作する ・制作手順を検討し、適切な技法を使って制作する	22～23
	12	10	【A表現】【B鑑賞】 ■生活シーンごとに「装」 ・友人や家族に贈るペンダントの制作 ・織物でコースターをつくる 【題材は選択して扱う】	・使う人や場を考え発想する ・検討図や制作図で構想を確実にする ・材料や用具を吟味し制作する ・制作手順を検討し、適切な技法を使って制作する	24～27
			1	6	【B鑑賞】 ■生活シーンごとに「伝」 ■材料特性を知る
3 学 期	2	8	【B鑑賞】 ■産業と工芸の歩み ■暮らしと伝統的な工芸	・ものづくりの歩みを知り生活に生かす ・デザインと生活環境との関連について考え、自己の意見をまとめる	38～53
			3	2	【B鑑賞】 まとめ

工芸Ⅱ (116-日文・工Ⅱ-301) (3年間の年間教材実施資料)

A 高校

	4(月)	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1 年次	椅子の模型制作【椅子のデザイン】 (コンセプト, 成形, プレゼンテーション)				木工制作【シナ合板によるケース】 (部品図・製図, 制作, 塗装仕上げ)								
2 年次	陶芸 (板づくりによるペアカップ)				染色 (型染め)					金工制作 (シルバーリング)			
3 年次	建築模型の制作 (コンセプト, 1/180平面図, 立面図の作成)				建築模型の制作 (1/50平面図, 立面図の作成, 1/50模型制作)								

B 高校

	4(月)	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	図法	陶芸 (たたらづくりによるカップ, 皿などの制作)			鎌倉彫 (校内の植物を観察, 図案化, 丸盆の制作)			革工芸 (レザーカーヴィングによるペンスタンド制作)				
2 年次	陶芸 (電動ろくろによる茶碗, 大皿の制作)				建築模型 (公衆トイレのコンセプトを図面にして具現化する建築模型の制作)							
3 年次	各自年間計画を立て, 計画に従い制作 (陶芸, 革工芸, シルバーリング, 木彫, 木工, その他)				各自年間計画を立て, 計画に従い制作 (陶芸, 革工芸, シルバーリング, 木彫, 木工, その他)							

C 高校

	4(月)	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	木でつくる (木のかばんの制作)				金属でつくる (ティースプーンの制作)			七宝でつくる (ブローチの制作)				
2 年次	遊【動くおもちゃの制作】または食【鉢, 大皿の制作】				土でつくる (組み皿の制作)			編む (籐かごの制作)				
3 年次	各自年間計画を立て, 計画に従い制作 (陶芸, 革工芸, 金工, 木工, その他)				各自年間計画を立て, 計画に従い制作 (陶芸, 革工芸, 金工, 木工, その他)							

D 高校

	4(月)	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	紙による造形 (ポップアップカード)		陶芸 (ペーパーウェイト, 貯金箱)		木工 (ペーパーナイフ)			シルクスクリーン印刷 (Tシャツ)		革工芸 (キーケース)		
2 年次	籐工芸 (ベニヤ板を使った籐かご)				陶芸 (板づくりの器, ひもづくりの器)			七宝制作 (七宝額飾り)				
3 年次	木工制作 (菓子皿)				金工制作 (シルバーリング)							

※この見開きに表記した題材名は、関連する教科書のページ内容から想定したもので、教科書の目次にある題材名とは異なっている。

高校生の美術 1 (116-日文・美I-305)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、美術を通して生徒の「感性」を高め、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	● 教科書全般
「美術I」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「美術I」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」とともに「芸術文化についての理解」を深めることができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材の設定については、中学校美術の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現題材では、「発想や構想」の手がかりとなるように参考作品を多く示すとともに、制作過程を示して「創造的な技能」も併せて学べるように配慮した。 ● 鑑賞題材では、「自然と美術とのかかわり」や「生活や社会を心豊かにする美術の働き」について理解を深められるように作品を精選して示した。 ● 我が国の伝統的な美術や諸外国の美術文化について理解し、尊重する態度を養うために表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ● ページ数を大幅に増やし、題材の情報量と学習に役立つ資料の充実を図った。 ● 「ねらい」「リンク」「実物大」「課題」「作家の言葉」をマークやイラストレーションで示し、それぞれ関連付けて学習できるように工夫した。 ● 各題材に学習のねらいを明確に示し、生徒が学習に取り組みやすいように留意した。 ● 必要に応じて用紙を変え、項目区分をわかりやすくする工夫をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般,100~153 ● 教科書全般 ● 6,10,12,14,18,22,24,26,30,36,38,40,42,44,51,54,56,60,62,64,66,68,70,74,76,78,80,82,84,86,88,90,94,96,98 ● 29~36,101~124
内容の程度、正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 掲載作品には、解説文や作者の言葉をつけて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名をつけるなどして、学習に役立つよう配慮した。 ● 作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確で、わかりやすい表記を心がけた。 	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 身の回りにあるデザインから学習する題材を設定するなど、今日的な内容を積極的に取り上げた。 ● 環境をテーマにした題材や自然とかかわるイベントなどを取り上げ、環境への意識が高まるように配慮した。 ● 美術と触れ合う環境としての美術館を取り上げ、解説した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 66・67,68・69,74・75,78・79 ● 4・5,62・63 ● 151・152
人権尊重などへの視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現や鑑賞を通して、さまざまな人たちとの共生や社会とのかかわり、福祉の視点から題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ● 年表の「美術・一般史」の日本の項目について、色を変えるだけでなく文頭に●をつけるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。 ● 生徒が美術を学ぶことの意義や将来像について、実感を持って考えられるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 20,74・75,84,87 ● 103~106 ● 153
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本美術の題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるよう工夫した。 ● 資料として美術史のページを設け、「西洋」「日本」「近代デザイン」「映像メディア」について、豊富な作品例をあげ、テーマによって詳細に解説した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 26~35,36,38・39,64・65,98・99 ● 100~124

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ●「美術I」で学ぶべき基礎的、基本的事項をしっかりと学習できるように題材を設定し、さらに制作過程や説明図を入れるなどして、理解が深まるように工夫した。 ●「技法・色彩」の資料ページを設けて、学習の助けになるように詳しく説明した。特に色相環のページは、本の外側に広げられるようにして、どのページでも参照できるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●10,12・13,17,22,28,31~33,37,39,46,52,57,59,64,73,75,79,81,83,85,88,95 ●125~150
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が興味・関心を持てるように、生徒の身近にあるものや漫画、アニメーション、ゆるキャラなどを取り上げた。 ●生徒が親近感が持てるように、生徒作品も多く掲載した。 ●日本の伝統的な美術文化である、判じ絵をクイズ形式で取り上げたり、錯視の図版を掲載することで、生徒が楽しみながら学習できるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●9,40・41,78・79,94・95 ●7,9,17,19,21,25,41,73・74,79,93,95,97 ●22・23,31~33
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●「美術I」の「4 内容の取扱い」(3)の内容を踏まえ、デッサンやスケッチ、下絵などを示して作家の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、生徒が発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●6・7,17,25,52・53,57,59,62,70,73,75,95,97
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が実際の作品の大きさを体感し、作家の表現の工夫を読み取ることができるように、原寸大で作品を掲載するページを設定した。 ●両観音で開くページを設け、大画面で鑑賞したり、美術の変遷を把握したりすることができるように配慮した。 ●作品を掲載している作家をイメージしたイラストレーションと作家の言葉を掲載して、作家の考え方などに触れられるように工夫した。 ●浮世絵のページには、特別な紙を使用し、浮世絵の質感が味わえるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●6,45 ●31~34,47~50,103~106 ●8,12,14・15,20,23・24,31,41,43~45,52,56 ●30~35
他教科や中学校美術科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●「漫画」「美術館での鑑賞」など中学校美術科の内容を受けて、生徒の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ●今後の進路検討などの参考になるように、巻末に「これからの私と美術」を設定した。 ●資料の「美術史」では、文化的な背景や歴史の流れから、我が国及び諸外国の美術文化を総合的に理解できるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●40・41,151・152 ●153 ●100~124

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ●美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。また、印刷用紙も印刷に最適な用紙を厳選した。 	●教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ●判型はA4判とし、製本方式は、折ごとに糸でかかり表紙を付ける網代形式で、破れにくく堅牢な造本にした。 ●ページ数を大幅に増やし、表紙を入れて154ページとした。 	●教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、教科書を使用するに当たっての健康上の安全性に留意した。 	●教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●用紙は、表紙・本文とも再生紙を使用し、環境への配慮を十分にした。 	●教科書全般

高校美術 1 (116-日文・美I-302)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、美術を通して高校生の「感性」を高め、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	● 教科書全般
「美術I」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「美術I」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」とともに「美術文化についての理解」を深めることができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材の設定については、中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現題材では、「発想や構想」の手がかりとなるように参考作品を多く示すとともに、制作過程を示して「創造的な技能」も併せて学べるように配慮した。 ● 鑑賞題材では、「自然と美術とのかかわり」や「生活や社会を心豊かにする美術の働き」について理解を深められるように作品を精選して示した。 ● 我が国の伝統的な美術や諸外国の美術文化について理解し、尊重する態度を養えるように表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「美術I」で学ぶべき基礎的な力が確実に身につく、「美術II」「美術III」へと続く発展的な学習の基礎が学べるように題材を設定した。 ● 秩序だったレイアウトによって作品の美しさを生かし、紙面に統一感をもたせた。また、4ページ増とし、情報量と内容の充実を図った。 ● 図版を1ページ大で示すなどして、対比することによって高校生自身が考え、作品や作家、背景となっている美術文化への理解を深められるように工夫した。 	● 教科書全般 ● 2・3,4・5,10・11, 18~21,24・25, 32・33,36・37, 44・45,60・61
内容の程度, 正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ● 参考作品には、解説文を付けて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名を付けるなどして、学習に役立つように配慮した。 ● 作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確で、わかりやすい表記をするようにした。 ● 掲載作品は、美術の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。 	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 携帯端末やプロダクトデザイン、現代建築など今日の内容を積極的に取り上げた。 ● 美術イベントなどを通して人間と自然との関係を考え、環境への意識が高まるように配慮した題材を設定した。 	● 3,51,56・57, 60・61 ● 78・79
人権尊重などへの視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現や鑑賞を通して、さまざまな人たちとの共生や社会との関わり、福祉の視点から題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ● 年表の「美術・一般史」の日本の項目について色を変えるだけでなく、文頭に●をつけるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。 	● 42,56,58 ● 73~76
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本美術の題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ● 西洋の美術作品と日本の美術作品を比較することによって、それぞれの作品が生まれた背景としての美術文化への理解が深まるように配慮した。 ● 年表では、古代から現代まで日本・東洋と西洋の多様な作品を掲載した。また、解説ページをつけ美術文化の変遷を理解できるように配慮した。 	● 28~31 ● 4・5,18~23, 32・33,36・37, 60・61 ● 72~77

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生にとって「美術I」で学ぶべき基礎的、基本的事項はしっかりと学習できるように題材を設定し、さらに制作過程を示したり、図を入れるなどして理解が深まるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 12～15,18・19, 34・35,38・39, 41,44～48,50～53
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● ファッション、ぱらぱら漫画など今日の高校生が身近に感じられるものや、興味・関心が持てる内容を積極的に取り上げた。 ● 写真や図版の選択では、単に優れた作品を羅列するのではなく、高校生の心情に訴えかけるものは何かという観点から選択した。また、我が国の美術館などが所蔵する作品も多数取り上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3,9,26・27, 62～64,68・69 ● 教科書全般
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 「美術I」の「4 内容の取扱い」(3)の内容を踏まえ、デッサンやスケッチ、下絵などを作品とともに示して作者の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 6～9, 12・13,38
創造的な技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵画・彫刻では作品の制作過程などを示したり、用具・材料と表現との関わりを示したりして、高校生が表現する際の手がかりとなるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 12～15,34・35, 38・39,41,44～47
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 作品を1ページ大で示すなどして、作品のよさが実感できるように配慮した。また、さまざまな観点から作品を対比的に示し、比較しながら鑑賞することによって、より作品や作家への理解が深まるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2～5,10・11, 18～21,24・25, 30～33,36・37, 40,44・45,49, 60～63
他教科や中学校美術科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材の設定に当たっては中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ● 美術史年表は、文化的な背景や歴史の流れから、我が国及び諸外国の美術文化が総合的に理解できるように、一般史を加えるなど工夫した。また、縦書きとし、国語との関連を考え右から左に読む形にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般 ● 73～76

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ● 判型をA4変型判、製本形式を中綴じにすることにより、見開き図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 ● ページ数を4ページ増とした。 ● 年表ページは観音開きの折り込みとし、開きやすく見やすいように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ● 印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たっての安全性に留意した。 ● 制作過程を示す場合でも、有毒ガスを吸わないように配慮していることを示すなど、安全への喚起を促す記述を加えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般 ● 41
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、環境への配慮を十分にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般

Art and You 創造の世界へ (116-日文・美I-303)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	●学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、美術を通して高校生の「感性」を高め、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、創造という幅広い視点から題材を設定した。	●教科書全般
「美術I」の目標との関連	●学習指導要領に示された「美術I」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」とともに「美術文化についての理解」を深めることができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ●題材の設定については、中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。	●教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	●表現題材では、「発想や構想」の手がかりとなるように参考作品を多く示すとともに、制作過程を示して「創造的な技能」も併せて学べるように配慮した。 ●鑑賞題材では、「自然と美術とのかかわり」や「生活や社会を心豊かにする美術の働き」について理解を深められるように作品を精選して示した。 ●我が国の伝統的な美術や諸外国の美術文化について理解し、尊重する態度を養えるように表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。	●教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	●美術を広く創造として捉え、教科書を「創造の扉」「創造の道程」「創造の結実」の3章で構成した。創造の萌芽、展開、作品への結実という一連の流れを示すことによって、創造とは何かについて、高校生が具体的に理解できるように工夫した。 ●高校生が常に持ち歩き、いつでも開いて見ることができるようコンパクトなB5ワイド判とした。またページ数を多くして題材の充実を図り、良質の原稿を使用した美しい作品を多数掲載した。これらのことにより、生涯にわたり愛蔵本となることをも願った。 ●全体にかかわる基礎的事項や年表は、巻末に資料としてまとめ、参照しながら本文の理解を深められるように工夫した。 ●生徒作品やコラムを入れ学習の手助けとなるように工夫した。	●教科書全般 ●94～99 ●14,17,21,35,65,71,79,87
内容の程度、正確性への配慮	●文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ●参考作品には、解説文を付けて作品の理解に役立つように工夫した。 ●日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名を付けるなどして、学習に役立つように配慮した。 ●作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように正確で、わかりやすい表記をするようにした。 ●掲載作品は、美術の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。	●教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	●現代の作家や作品も積極的に取り上げ、美術の多様さ、幅の広さを示した。 ●自然と人間の共生、環境形成に果たす美術の役割、美術と土地・風土などとの関係を考える視点から題材を設定した。	●5,9・10,12・13,17,27,32・33,35・36,38・39,58・59,66～70,72～75,77,79,80・81,85,88・89 ●18～21,26,50～55,58・59,76・77,82・83,86・87,90～93
人権尊重などへの視点	●表現や鑑賞を通して、さまざまな人たちとの共生や社会との関わり、福祉の視点、ユニバーサルデザイン、反戦、平和についての題材設定や作品の掲載、解説などに配慮した。	●5,28・29,78・79
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	●日本美術についての題材を設定して、さまざまな視点から我が国の美術文化への理解を深め、尊重する心情が育まれるように工夫した。 ●日本美術、東洋美術、西洋美術、20世紀美術に分けて年表を作成し、美術文化の変遷を比較しながら理解できるように配慮した。	●22～25,42・43,67,72～75,77,82～84 ●96～99

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生にとって「美術I」で学ぶべき基礎的、基本的事項のうち、色彩の基礎、文字の基礎、美術の歴史などを巻末にまとめて示し、題材と関係させながらしっかりと学習できるように工夫した。 ● さまざまな表現方法による作例を多く示し、実際の制作等に役立つように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 94～99 ● 教科書全般
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● ファッション、アニメーションなど今日の高校生が身近に感じられるもの、興味・関心を持てる内容を積極的に取り上げた。 ● 写真や図版の選択では、単に優れた作品を羅列するのではなく、高校生の心情に訴えかけるものは何かという観点から選択した。また、我が国の美術館などが所蔵する作品も多数取り上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 26,38・39,58・59,70,73・74 ● 教科書全般
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● デッサンやスケッチ、下絵などを作品とともに示して作者の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。 ● 生徒作品を入れ、題材を学習するうえで、発想・構想をはじめ表現の手がかりとなるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 26,34,50～52,54・55,70,77 ● 14,17,65,71
創造的な技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 作品の制作過程や情景写真などを示して、用具・材料と表現との関わりを高校生が理解しやすいように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5・6,8,18・19,26,30・31,35,48・49,51～53,56～59,62・63,79
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 鑑賞作品として幅広くさまざまなジャンルの作品を選択した。 ● 表紙裏、各章の扉をはじめ随所に作品を大きく入れ、作品のよさや美しさを感じられるように工夫し、より作品への理解が深まるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般 ● 表紙裏, 2・3,6・7,10,12,16,22～25,30～33,37,40,45,50・51,54・55,59～63,78,81・82,86,89,92・93
他教科や中学校美術科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材の設定に当たっては中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ● 各章の扉と第2章「創造の道程」の題材には、作家の言葉を入れ、言語と作品の関係から鑑賞を深められるように工夫した。 ● ユニバーサルデザイン、ポスターなどを通して、人と社会とのかかわりについて学べるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般 ● 6・7,30～63 ● 28・29,78・79

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ● 判型をB5変型判とし、製本形式をフォローバックにすることにより、見開き図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 ● ページ数は、100ページとし、幅広い題材が取り上げられるようにした。 ● 表紙は、袖折（がんだれ）とし、堅牢な造本となるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ● 印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たっての安全性に留意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、環境への配慮を十分にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般

高校生の美術 2 (116-日文・美Ⅱ-304)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育て、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	● 教科書全般
「美術Ⅱ」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領「美術Ⅱ」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす」ことができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材の設定については、「美術Ⅰ」の幅広い美的体験の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現題材では、「美術Ⅰ」での学習を基礎にして、自分なりの「発想や構想」を基に主題を生成し、表現形式を選択して「創造的な技能」を用いて個性豊かな表現の手がかりとなる参考例を多く掲載した。 ● 鑑賞題材では、作者の「発想や構想の独自性」「表現の工夫」などについて理解を深められるように作品を精選した。 ● 「時代、民族、風土、宗教」などによる我が国及び諸外国の表現の相違について表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ● ページ数を増やして、題材の情報量と学習に役立つ資料の充実を図った。 ● 「ねらい」「リンク」「課題」「作家の言葉」をマークやイラストレーションで示し、それぞれ関連付けて学習できるように工夫した。 ● 各題材に学習のねらいを明確に示し、生徒が学習に取り組みやすいように留意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般,60~81 ● 教科書全般 ● 4,6,8,10,12,14,16,18,22,30,32,36,38,40,42,44,46,48,50,54,56,58
内容の程度, 正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 掲載作品には、解説文や作者の言葉をつけて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名をつけて、学習に役立つように配慮した。 ● 作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確で、わかりやすい表記を心がけた。 	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 身の回りにあるデザインや映像メディア表現から学習する題材を設定するなど、今日的な内容を積極的に取り上げた。 ● 庭園をテーマにした題材を取り上げるなど、環境への意識が高まるように配慮した。 ● 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 42~45,50・51,56~59 ● 48・49 ● 6~9,14・15,42・43
人権尊重などへの視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現や鑑賞を通して、様々な人たちとの共生や社会との関わり、福祉の視点から題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ● 校内展の展示や共同制作、地域イベントなど美術を通じてコミュニケーションを密にし、社会とも関わる題材を設定した。 ● 「ねらい」などのマークは、はっきりとした色彩にするなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 12・13,20,40・41,43,46・47,50・51,57 ● 79・80 ● 教科書全般
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本美術の題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ● 「作家探究」として日本人の作家を取り上げ、理解を深めることができるように工夫した。 ● 資料として美術史のページを設け、古代から現代までの日本及び海外の美術の流れを概観できるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 22~28 ● 34・35,52・53 ● 60~63

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ●「美術Ⅱ」で学ぶべき基礎的、基本的事項をしっかりと学習できるように題材を設定し、さらに制作過程や説明図を入れるなどして、理解が深まるように工夫した。 ●資料として「美術史料」「技法」「色彩」のページを設けて、学習の助けになるように解説した。特に「色彩」のトーン分類図のページは、本の外側に広げられるようにして、どの題材でも参照できるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4,21,31,40・41,45,47,56,59 ●60～78
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が興味・関心を持てるように、生徒の身近にあるものをテーマにした作品や漫画、絵本、アニメーション、トリックアートなどを取り上げた。 ●生徒が親近感を持てるように、生徒作品も多く掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●10・11,21,33,44・45,50・51,56・57 ●7,9,11,13,17,21,33,37,43,45,55
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●「美術Ⅱ」の「4 内容の取扱い」(3)の内容を踏まえ、デッサンやスケッチ、下絵などを示して作家の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、生徒が発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●13,15,17～19,21,31,40・41,45,47
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●「庭園の造形」のように日本や諸外国の美術の鑑賞題材の充実を図り、表現の相違や共通性への理解を深められるように配慮した。 ●日本美術を代表する琳派については複数のページを割り当てるとともに両観音開きとし、さらに屏風絵を折り曲げて鑑賞できるように工夫して、知識等を学びながらそのよさを実感できるように配慮した。 ●作品を掲載している作家をイメージしたイラストレーションと作家の言葉を掲載して、作家の考え方などに触れられるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●48・49,教科書全般 ●22～28 ●6,8,12,14,17,28,32,36,38
他教科や中学校美術科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●漫画、ポスター、校内展示、イベントを通じた地域とのコミュニケーションなど中学校美術科の内容を受けて、生徒の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 ●「庭園の造形」や資料の「美術史料」では、古代から現代までの美術を取り上げ、時代、地域、民族、風土、宗教などによる表現の相違や共通性について理解を深められるように配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●33,40・41,79・80 ●48・49,60～63

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ●美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で美しい印刷を心がけた。また、印刷用紙も印刷に最適な用紙を厳選した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ●判型はA4判とし、製本方式は、折ごとに糸でかがり表紙をつける網代形式で、破れにくく堅牢な造本にした。 ●ページ数を増やし、表紙を入れて82ページとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、教科書を使用するに当たっての健康上の安全性に留意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●用紙は、表紙・本文とも再生紙を使用し、環境への配慮を十分にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書全般

高校美術 2 (116-日文・美Ⅱ-302)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育て、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	● 教科書全般
「美術Ⅱ」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領「美術Ⅱ」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす」ことができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材の設定については、「美術Ⅰ」の幅広い美的体験の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現題材では、「美術Ⅰ」での学習を基礎にして、自分なりの「発想や構想」を基に主題を生成し、表現形式を選択して「創造的な技能」を用いて個性豊かな表現の手がかりとなる参考作品を掲載した。 ● 鑑賞題材では、作者の「発想や構想の独自性」「表現の工夫」などについて理解を深められるように作品を精選して示した。 ● 「時代、民族、風土、宗教」などによる我が国及び諸外国の表現の相違について表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「美術Ⅰ」の学習を基に、高校生の能力・適正、興味・関心などに応じた活動を展開できるように題材を設定した。 ● 秩序だったレイアウトによって作品の美しさを生かし、紙面に統一感を持たせた。 ● 作品を大きく掲載することで、作品のよさや作者の表現の工夫を十分に味わえるように配慮した。 	● 教科書全般 ● 4・5,11,14~22, 26~31,38・39,42, 55,57,62・63
内容の程度、正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ● 参考作品には解説文を付けて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名を付けるなどして、学習に役立つように配慮した。 ● 作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確に、わかりやすく表記した。 ● 掲載作品は、美術の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。 	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生の参加したアートプロジェクトや生徒作品、現代の高校生が興味・関心を持つような題材、作品を多く掲載し、美術を愛好する心が育つように配慮した。環境問題と交通機関の変化など現代的なテーマも取り上げた。 ● 海や水、葉柄などを使ったり、テーマとした作品やツリーハウス、パブリックアート、彫刻庭園など環境と関わりの深い作品を取り上げたり、題材を設定したりして、環境への理解が深まるように配慮した。 	● 4・5,7,32,34, 48・49,56~61 ● 2・3,26~31, 38・39,54・55, 62・63
人権尊重及び平和教育への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵筆が持てなくなっても制作を続けた作家、体の不自由な女性をテーマにした作品、反戦をテーマにしたポスター、東日本大震災復興支援のイベントなどを掲載し、表現や鑑賞を通して、生命や平和の大切さへの興味・関心が深まるように十分配慮した。 	● 16・17,20・21, 44・45
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本画の表現技法を示した題材や「水」をテーマとした日本美術の題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ● 日本の現代美術や外国の現代美術も載せ、美術文化への理解が深まるように配慮した。 ● 中国など諸外国の作品を多く掲載し、日本の美術との相違や諸外国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 	● 表紙,24~31 ● 2~7,22・23 ● 11,23,36・37, 61・62

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生にとって「美術Ⅱ」で必要な基礎的、基本的事項はしっかり学習できるように、資料として色彩についてのページを設定するなどして配慮した。 	● 40・41
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校生の生活実感に即した題材を設定し、興味・関心を持って、その主題を主体的に追究することで、より深く内容ができるようにした。 ● 写真や図版の選択では、単に優れた作品を羅列するのではなく、高校生の心情に訴えかけるものは何かという観点から選択した。また、我が国の美術館などが所蔵する作品も多数取り上げた。 	● 4・5,7,44~49, 58・59 ● 教科書全般
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 「美術Ⅱ」の「4 内容の取扱い」(2)の内容を踏まえ、デッサンやスケッチ、下絵などを作品とともに示して作者の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。 	● 2,10,21,24・25, 44,58・59
創造的な技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 作品の制作過程や図などを示したり、用具・材料と表現との関わりを説明したりして、高校生が表現を理解する際の手がかりとなるように工夫した。 	● 12~19,24・25, 34・35,40・41,47, 52・53
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 作品を大きく掲載し、作品のよさが実感できるように配慮した。 ● 作者の写真も掲載して、作品への理解が深まるように工夫した。 	● 教科書全般 ● 8・9,17
他教科や「美術Ⅰ」との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材の設定に当たっては、「美術Ⅰ」の学習の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ● 音楽などとの関連も考慮した題材を設定した。 	● 教科書全般 ● 58・59

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。 	● 教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ● 判型をA4変型判とし、製本形式を中綴じにすることにより、見開き図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 	● 教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ● 印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用するとともに表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たっての安全性に留意した。 	● 教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、十分に環境への配慮をした。 	● 教科書全般

高校生の美術 3 (116-日文・美Ⅲ-304)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育て、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	● 教科書全般
「美術Ⅲ」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領「美術Ⅲ」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める」ことができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材の設定については、「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の幅広い美的体験の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現題材では、「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」での学習を基礎にして、自分なりの「発想や構想」を基に主題を生成し、表現形式を選択して「創造的な技能」を用いて個性豊かな表現の手がかりとなる参考作品を掲載した。 ● 鑑賞題材では、作者の「発想や構想の独自性」「表現の工夫」などについて理解を深められるように作品を精選した。 ● 「時代、民族、風土、宗教」などによる我が国及び諸外国の表現の相違について表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 内容を精選するとともに、資料ページを設けてポートフォリオの作り方などを掲載して、学習に役立つ資料の充実を図った。 ● 「ねらい」「リンク」「課題」「作家の言葉」をマークやイラストレーションで示し、それぞれ関連付けて学習できるように工夫した。 ● 各題材に学習のねらいを明確に示し、生徒が学習に取り組みやすいように留意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全般, 40~45 ● 教科書全般 ● 4,8,10,12,14,16,18, 20,22,24,26,28,30, 32,34,36,38
内容の程度, 正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 掲載作品には、解説文や作者の言葉をつけて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名をつけて、学習に役立つように配慮した。 ● 作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確で、わかりやすい表記を心がけた。 	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常目にしていないものや身の回りにあるデザインから学習する題材を設定するなど、今日的な内容を積極的に取り上げた。 ● 障子の窓をテーマにした題材を取り上げるなど、環境への意識が高まるように配慮した。 ● 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4~9,28・29 ● 4~7 ● 8~9,20~21,24~25,30~31,36~37
人権尊重などへの視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現や鑑賞を通して、さまざまな人たちとの共生や社会との関わりや福祉の視点から題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ● 資料でポートフォリオの意味や作成の仕方を示し、自らの作品を大切にすることの意義を学べるようにした。 ● 「ねらい」などのマークは、はっきりとした色彩にするなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 28~29,34~35 ● 42・43 ● 教科書全般
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌舞伎やアニメーションなどの題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ● 日本の作品及び日本人の作家を多く取り上げ、理解を深めることができるように工夫した。 ● 資料として、我が国独自の文化財の保存と継承のページを設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 32~33 ● 10~17,19~21, 30・31,38・39 ● 40・41 ● 教科書全般,22・23

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ● 「美術Ⅲ」で学ぶべき基礎的, 基本的事項をしっかりと学習できるように題材を設定し, さらに制作過程や説明図を入れるなどして, 理解が深まるように工夫した。 	● 10, 20, 24, 28~31, 33, 38~41
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が興味・関心を持てるように, 漫画のキャラクターや有名なアニメーション作品などを取り上げた。 ● 生徒が作家や作品に興味を持ち, 作家の制作意図や作品をより深く理解できるように作家紹介や作家の言葉を掲載した。 	● 8・9, 14, 19, 38・39 ● 17, 21, 23, 31, 45
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● デッサンやスケッチ, 下絵などを示して作家の発想や構想を理解する手がかりとするとともに, 生徒が発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。 	● 8, 10, 24, 28~31, 38
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 「切り取られた風景」のように日本と諸外国の美術比較する鑑賞題材や海外作品の充実を図り, 表現の相違や共通性への理解を深められるように配慮した。 ● 日本美術を代表する伝統芸能歌舞伎について, 知識等を学びながらそのよさを実感できるように工夫した。 ● 必要に応じて, 見開きページの大画面で作品を載せ, その迫力を実感できるように工夫した。 	● 4~7, 教科書全般 ● 32・33 ● 16・17, 22・23
他教科や中学校美術科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● ゲームのキャラクター, アニメーションなど中学校美術科の内容を受けて, 生徒の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 19, 38・39

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術の教科書にふさわしく, 作品のよさが正しく伝わるように, 鮮明で美しい印刷を心がけた。また, 印刷用紙も印刷に最適な用紙を厳選した。 	● 教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ● 判型はA4判とし, 製本方式は, 折ごとに糸でかがり表紙をつける網代形式で, 破れにくく堅牢な造本にした。 	● 教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ● 印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また, 表紙の表面加工にも配慮し, 教科書を使用するに当たっての健康上の安全性に留意した。 	● 教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 用紙は, 表紙・本文とも再生紙を使用し, 環境への配慮を十分にした。 	● 教科書全般

高校美術 3 (116-日文・美Ⅲ-302)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育て、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	● 教科書全般
「美術Ⅲ」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領「美術Ⅲ」の目標及び内容を踏まえ、「感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める」ことができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ● 題材設定については、「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の幅広い美的体験の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	● 教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現題材では「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」での学習を基礎にして、「独創的な主題を生成し」「個性を生かして創造的な表現を追求する」手がかりとなるように内容を精選した。 ● 鑑賞題材では、仕事の内容や作品と「社会とのかかわりなどを考察」したり、「文化遺産等を継承し保存することの意義」を理解したりできるように配慮した。 	● 教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ● 美術にかかわる職業とその職業に現在携わっている内外20名の人物を取り上げ、高校生が美術文化への理解を深め、自らの将来についても考えることができるように編集した。 	● 教科書全般
内容の程度、正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ● 掲載作品には説明文を付けて作品の理解に役立つように工夫した。 ● 作家名、撮影者名、読みにくい作品名、特殊な美術用語には振り仮名を付け、内容の理解に役立つように配慮した。 ● 取り上げた人物や作品については、内容を十分に理解できるように詳しく、正確に、わかりやすく解説した。 ● 掲載作品などは、美術の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色味に忠実な印刷を目指した。 	● 教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在活躍中の人物のみを取り上げ、現代の高校生が興味・関心を持てるように配慮した。 ● 人間と地球環境の問題をテーマに制作を続けるグラフィックデザイナー、リサイクルできる素材を使う建築家、植物の壁や外装を制作する植物アーティストなどを取り上げ、環境への理解が深まるように配慮した。 	● 教科書全般 ● 12・13, 22～25
人権尊重及び平和教育への視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 東日本大震災に触発されて作品を制作した画家、コンテナや紙管を使って仮説住宅や避難所を制作した建築家などを取り上げて、生命や平和の大切さへの興味・関心が深まるよう配慮した。 	● 6・7, 22・23
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本の美術作品の修復家、失われてしまった古代の色の再現を試みる染色家、美術史家などを取り上げて、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ● 外国在住で外国人のストーリーに絵をつける絵本画家、植物との共生を図る外国人植物アーティスト、主に西洋絵画の主人公に扮するという制作を続ける美術家などを取り上げ、海外の美術文化について理解を深めることができるように配慮した。 	● 34～37, 40・41 ● 14・15, 24・25, 38・39

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ●「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の学習を踏まえ、「高美Ⅲ」で必要な基礎的,基本的能力がさらに深まるよう題材を設定した。 	●教科書全般
美術への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●現在も活躍している人物のみを取り上げ,同時代を共に生きる高校生が親しみを持って学習できるように配慮した。 ●美術家,グラフィックデザイナー,プロダクトデザイナー,ファッションデザイナー,照明デザイナー,植物アーティスト,CMディレクター,アニメーション監督,修復家,染色家,美術史家,ギャラリストなど幅広い職種を取り上げ,高校生が関心を持つことで将来の職業選択の手がかりともなるように配慮した。 	●教科書全般
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●スケッチやデッサン,下絵などを載せ,どんな発想や構想で制作しているかという説明と併せて,学習の手がかりとなるように配慮した。 	●5,8・9,13~15,17・18,21~27,29~33
創造的な技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●作品の制作過程や用具・材料とのかかわりを説明するなどして,高校生が表現を理解する際の手がかりとなるように工夫した。 	●6~9,11,13,15,17,33,39
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●作品や情景写真を大きく掲載し,作品のよさなどが実感できるように配慮した。 ●作者の写真は,できるだけ制作・作業をしている写真を掲載し,その職業への理解が深まるように工夫した。 	●教科書全般
他教科や「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の学習の上に立ち,表現により独創性を加味できるように題材を精選した。 ●道徳や歴史,家庭科などとの関連も考慮した。 	●教科書全般 ●7,12・13,18・19,34~37,40・41

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特徴	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ●美術の教科書にふさわしく,作品などのよさが正しく伝わるように,鮮明で,美しい印刷を心がけた。 	●教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ●判型をA4変型判とし,製本形式を中綴じにすることによりページが完全に開くなど,細部まで使いやすさを追求した。 	●教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物性のインキを使用するとともに表紙の表面加工にも配慮し,学習に使用するに当たっての安全性に留意した。 	●教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど,十分に環境への配慮をした。 	●教科書全般

工芸 I (116-日文・EI-301)

1 新学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、工芸を通して高校生の「感性」を高め、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	●教科書全般
「工芸I」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領に示された「工芸I」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育てる」とともに「工芸の伝統と文化についての理解」を深めることができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ●題材の設定については、中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な能力に応じた取り扱いができるように配慮した。 	●教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ●表現題材では、演習を中心に「身近な生活と工芸」の視点から身の回りの自然や身近な生活に目を向けて制作することや、「社会と工芸」の視点から使用する人のことや機能性などを考えて制作することを目指し、「発想や構想の能力」の基礎を示すとともに、制作過程を示して「創造的な技能」も併せて学べるように配慮した。 ●鑑賞題材では、「自然と工芸との関わり」や「生活や社会を心豊かにする工芸の働き」について理解を深められるように作品を精選して示した。 ●我が国の伝統的な工芸の特質や美意識について理解し、尊重する態度を養えるように表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	●教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ●工芸を学習するに当たってのオリエンテーションを巻頭に設定し、「生涯にわたり工芸を愛好する心情」を育成することを考えて編集した。 ●学習内容が明確になるように五つの項目を設定し、「観察から表現へ」「考える」「造形の知識-機能-構造」「造形の知識-成形-色彩」の四項目では、工芸の基礎的な内容をわかりやすく説明した。もう一つの「つくる-材料-技法演習」では、工芸制作にかかわる材料を紹介するとともに、実際に制作するための様々な技法を示した。 	●教科書全般
内容の程度、正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ●掲載図版の選択や解説文に配慮し、作品の材料や技法、作者について理解を深め、その作品のよさや美しさを感じ取ることができるようにした。 ●日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、専門的な用語などには、振り仮名を付け、学習に支障がないように配慮した。 ●掲載作品は、工芸の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。 	●教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な生活や自然を観察することから、材料や技法を選択し、今日の生活に密着した作品づくりへと展開できるように題材の配列、設定を工夫した。 ●自然との共存の視点から、工芸の果たす役割についても考察できるように配慮した。 	●教科書全般 ●22・23,54・55
人権尊重などへの視点	<ul style="list-style-type: none"> ●自己の思いや使う人の心情、人との触れ合い、社会や生活環境との調和を図りながら制作することによって、人々の生活を心豊かなものにするという工芸の働きが理解できるように題材を設定した。 	●教科書全般
我が国及び諸外国の工芸の伝統と文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統的な工芸品から現代作家による工芸作品、量産品まで我が国の工芸について幅広く取り上げ、豊富な作品例を通して工芸の伝統と文化への理解が深まるように配慮した。 ●諸外国の工芸製品も多く取り上げ、それらがつくられた国の工芸の伝統と文化への興味・関心が持てるように配慮した。 	●教科書全般

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ●「身近な生活と工芸」と「社会と工芸」について「工芸I」で学ぶべき基礎的、基本的内容をわかりやすく学べるように配慮した。 	●6～19, 24・25, 30～41
工芸への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●写真や作品の選択については、高校生の生活実感に即したものを取り上げ、興味・関心を持って学習に取り組めるように配慮した。 ●各ページの下に「調べる（工芸基礎用語）」を設置し、教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事柄について自分で調べ検索できるようにし、学習をより一層深められるようにした。 	●教科書全般
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデアスケッチや下絵などを示して、作者の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、発想や構想を練る上でのアイデアスケッチ、下絵等が有用であることを学べるように配慮した。 	●11,13,14～17,22, 27,43,47,53
創造的な技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●実際の制作に役立つように制作過程を示し、材料や用具の扱い、技法等が学べるように配慮した。 	●13,21,43,45,47,49, 51,53
鑑賞の能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●幾世代にもわたり受け継がれてきた工芸の価値を知り、そこから生み出された工芸品の美しさやよさを感じ取ることができるように、作品や写真を精選して示した。 	●教科書全般
他教科や中学校美術科との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●題材の設定に当たっては中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ●高校生が工芸品について調べたり、作った作品について批評し合ったりする活動を通して、適切な言葉で発表したり、プレゼンテーションすることをねらいとした題材を設定した。 	●教科書全般 ●7,17,26

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ●工芸の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。 	●教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ●製本方式を中綴じにすることによって、ページを開いたとき図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 	●教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たっての安全性に留意した。 	●教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、環境への配慮を十分にした。 	●教科書全般

工芸Ⅱ (116-日文・工Ⅱ-301)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、「生涯にわたり芸術を愛好する心情」を育て、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。 	●教科書全般
「工芸Ⅱ」の目標との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●新学習指導要領「工芸Ⅱ」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす」ことができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ●題材の設定については、「工芸Ⅰ」の幅広い美的体験の上に立ち高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 	●教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> ●表現題材では、演習を中心に「身近な生活と工芸」の視点から身近な生活の中での工芸の働きを深く理解して、自己の思いと用途などを考えて制作することや、「社会と工芸」では、社会的な視点に立って工芸の役割を深く理解して、使用する人や場などを考えて制作することを目指し、「発想や構想の能力」の例を示すとともに、制作過程も示して「創造的な技能」についてもより深く学べるように配慮した。 ●鑑賞題材では、作者の「発想や構想の独自性、表現の工夫」や「生活環境の改善や心豊かな生き方にかかわる工芸の働き」などについて理解を深められるように作品を精選して示した。 ●「時代、民族、風土」などによる我が国及び諸外国の表現の相違について表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。 	●教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	<ul style="list-style-type: none"> ●「工芸Ⅱ」を学習するに当たってのオリエンテーションを設定し、工芸の役割と社会への広がり、工芸との触れ合いについて概観できるように配慮した。 ●学習内容が明確になるように「オリエンテーション」「生活シーンごとに」「材料特性を知る」の三つの項目を設定した。さらに「生活シーンごとに」では、五つのキーワードと演習で、生活や社会と工芸の関わりについて深く理解できるように工夫した。 ●巻末には、資料として「産業と工芸の歩み」と「暮らしと伝統的な工芸」を設定し、工芸の歴史と我が国及び諸外国の伝統的な工芸品が概観できるように配慮した。 	●教科書全般
内容の程度、正確性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ●参考作品には、できるだけ解説文を付けて作品の理解に役立つように工夫した。 ●日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない専門用語などには、振り仮名を付け、学習に支障のないように配慮した。 ●作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確に、わかりやすく表記した。 ●掲載作品は、工芸の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。 	●教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な生活シーンから工芸と社会の関わりなどを学習できるように題材の設定を工夫した。 ●自然から学ぶ姿勢や「場」との関わりから工芸と環境について理解を深められるように工夫した。 	●8～28 ●2・3,6・7,18～20, 28・29
人権尊重などへの視点	<ul style="list-style-type: none"> ●使う人の心情、人との触れ合い、社会や生活環境との調和を図りながら制作することによって、生活を心豊かなものにするという工芸の働きが、より深く理解できるように題材を設定した。 	●4・5,8・9,28
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統的な工芸品から現代作家による工芸作品、量産品まで我が国の工芸について幅広く取り上げ、豊富な作例を通して工芸の伝統と文化への理解が深まるように配慮した。 ●資料ページでは、諸外国と我が国の伝統的な工芸品を取り上げた。 	●教科書全般 ●46～53

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	<ul style="list-style-type: none"> ●「身近な生活と工芸」と「社会と工芸」について「工芸Ⅱ」で学ぶべき基礎的、基本的事項はしっかり学習できるように、題材設定に配慮した。 	●教科書全般
工芸への関心・意欲・態度についての配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●写真や作品の選択については、高校生の生活実感に即したものを取り上げ、興味・関心を持って学習に取り組めるように配慮した。 ●各ページの下に「調べる（工芸基礎用語）」を設置して、教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事項について自分で調べ、検索することで学習がより一層深まるようにした。 ●生活シーンを「遊」「食」「住」「装」「伝」のキーワードに分類し、自分たちの生活と工芸との関わりの深さを知り、工芸の働きが理解できるように工夫した。 	●教科書全般 ●8～28
発想や構想の能力への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●アイデアスケッチや下絵などを示して、作者の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、発想や構想を練る上でのアイデアスケッチ、下絵等が有用であることを学べるように配慮した。 	●7,8,10,16～18,20,22,24,27・28
創造的な技能を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●演習では、実際の制作に役立つように制作過程を示し、材料や用具の扱い、技法等が学べるように配慮した。 ●材料の特性と加工方法についてのページを設け、制作する上での参考になるよう配慮した。 	●8～11,14～17,22～27 ●30～37
鑑賞能力を高めるための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●資料ページ「産業と工芸の歩み」「暮らしと伝統的な工芸」を設定して、工芸の歴史と我が国及び諸外国の工芸品を鑑賞できるように工夫した。 	●38～53
他教科や「工芸Ⅰ」との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●題材の設定に当たっては、「工芸Ⅰ」の学習の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じて、より個性的な作品づくりができるように配慮した。 	●教科書全般

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	<ul style="list-style-type: none"> ●工芸の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。 	●教科書全般
製本	<ul style="list-style-type: none"> ●製本方式を中綴じにすることによって、ページを開いたとき図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 	●教科書全般
安全性について	<ul style="list-style-type: none"> ●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用するとともに表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たって十分に配慮した。 	●教科書全般
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、十分に環境への配慮をした。 	●教科書全般

1. 高等学校における学習評価の考え方

平成21年版の学習指導要領では、きめの細かい学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の確実な定着を図るため、各教科・科目における生徒の学習状況を分析的に捉える観点別学習状況の評価（以下、観点別評価という）と総括的に捉える評定とを、目標に準拠した評価として実施することとされている。

その際、高等学校の生徒指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」には、観点別評価を記述する欄はなく、評定のみを記述することになっている。しかし、高等学校においても、学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、授業の改善に寄与すると学習評価の重要性は同様であり、学習評価の前提となる指導と評価の計画の作成や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況の評価の実施など、学習評価の改善が求められている。

評定が各教科・科目の目標や内容に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものであるのに対し、観点別評価は各教科・科目の目標や内容に照らして学習の実現状況を分析的に評価するものであり、観点別評価が評定を行うための基本的な要素となる。そのため、高等学校においても評定を行うにあたっての基本的な考え方として、観点別評価における各観点の評価結果（A, B, C）を総括し、評定を行うなどの方法が求められている。

2. 指導と評価の一体化

教科の指導は、学習指導要領の指導事項に基づいて行われる。その際、目標に準拠した評価は、学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を見るものである。端的にいうと学習指導要領に示されていることが、「できるようになったか。」「わかるようになったか。」を見るものである。生徒が実現に向けてどのような点でつまずき、それを改善するためにどのように支援していけばよいかを教師が把握するためにも評価は重要であり、各学校においてはその取組の充実が一層求められているところである。

美術に関する科目の内容は「A表現」、「B鑑賞」で構成し、「A表現」は「(1) 絵画・彫刻」、「(2) デザイン」、「(3) 映像メディア表現」から示されている。「A表現」は指導事項が「発想や構想の能力」と「創造的な技能」から、「B鑑賞」は「鑑賞

の能力」から作成され、それらの資質や能力を育成することが学習のねらいになっている。観点別評価では、これらの「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」に、生徒がこれらを身に付けようとしたり、発揮しようとしたりすることへ向かう「美術への関心・意欲・態度」を加え、四つの観点で評価することとなる。また、工芸に関する科目においては、「A表現」は「(1) 身近な生活と工芸」、「(2) 社会と工芸」から示されているが、基本的な考えは美術と同様である。

美術や工芸の表現の活動においては、「発想や構想の能力」や「創造的な技能」は制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものである。そのため、「発想や構想の能力」「創造的な技能」は、机間指導をする中で制作途中の作品から見取ることができるという特性がある。その状況を捉えながら指導を加えていくことは、従来からもなされていたことであり、これを評価規準を用いて視点を明確にし、一人一人の生徒を丁寧に見取り、学習指導の改善に生かすことが大切である。

授業のねらいは、学習のプロセスにおいて、節目ごとに生徒の学習状況を4観点で見取り、その時点で力が発揮できていない状況が見られた場合には手だてを講じていくことは、全ての生徒に目標を実現させるためには重要なことである。評価においては、最終的な学習結果を把握する評価とともに、このような形成的な評価が大切である。

3. 観点別評価のすすめ方

① 評価規準の作成

観点別評価を着実に実施するためには、教科・科目の目標だけでなく、領域や内容項目レベルの学習指導のねらいが明確になっていること、学習指導のねらいが生徒の学習状況として実現されたとはどのような状態になっているかが具体的に想定されることが必要である。このような状況を観点ごとに具体的に示したものが評価規準であり、各学校において設定するものである。

高等学校芸術科（美術、工芸）における評価規準は、学習指導要領の指導事項を基に作成することが基本となる。美術Ⅰ、工芸Ⅰの学習指導要領の内容、「A表現」においては、ア、イの指導事項が発想や構想の能力、ウ、エの指導事項が創造的な技能に、「B鑑賞」が鑑賞の能力に対応している。これらに

学習への関心・意欲・態度を加えると評価の4観点になる。これらの学習指導要領の指導事項から評価規準を作成することが基本となるが、さらに簡単な方法としては、国立教育政策研究所が平成24年3月に作成した「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための資料」（注1）を活用することである。ここに示されている「評価規準の設定例」の言葉を、題材の内容に合わせて変更するだけで評価規準が作成できるようになっている。

（注1 国立教育政策研究所のURL
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）

② 観点別評価の実施

高等学校における観点別評価は、生徒指導要録に記載する部分がないため、明示されているわけではないが、「十分満足できる」状況（A）、「おおむね満足できる」状況（B）、「努力を要する」状況（C）で評価するなど、基本的な考え方は小・中学校と同じものになると考えられる。評価規準に照らして、その状況が実現されていれば「B」とし、「B」のうち、質的な高まりや深まりのあるものを「A」とする。また、「B」を実現していないものを「C」とすることになる。

③ 観点別評価の評定への総括

観点別学習状況の評価の評定への総括は、各観点の評価結果をA、B、Cの組合せ、または、A、B、Cを数値で表したものに基づいて総括し、その結果を5段階で表す。A、B、Cの組合せから評定に総括する場合、各観点とも同じ評価がそろえば、「AAAA」であれば4または5、「BBBB」であれば3、「CCCC」であれば2または1とするのが適当であると考えられる。それ以外の場合は、各観点のA、B、Cの数の組合せから適切に評定する必要がある。

4. おわりに

教師は、授業中、机間指導を行う際には、その生徒の制作中の作品等から状況を見取り、適切な助言等を行っている。観点別評価は、これを四つの観点から見取る視点を明確にして行うものであり、一人一人の学習状況を丁寧に捉え学習内容の確実な定着を図ることを目指すものである。そして題材終了後に、最終的にねらいとする資質や能力がどの程度身に付いたかを見るものでもある。このように評価のための評価ではなく、指導に生かす評価の視点を重視することが大切である。

評価の観点及びその趣旨

学習指導要領をふまえ、芸術科 美術、工芸の特性に応じた評価の観点及びその趣旨は以下のとおりである。

美術

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

工芸

工芸への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
工芸の創造活動の喜びを味わい、工芸や工芸の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練っている。	創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

（国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための資料」より）

新しい学習指導要領を読む

京都市立芸術大学 教授 横田 学

1. 学習指導要領の改訂について

2018(平成30)年3月30日、新しい高等学校学習指導要領が告示された。この高等学校学習指導要領は2019年度から先行実施され、2022年度には学年進行で実施されることとなる。本章では、改訂の全体像について、その方向性、ポイント等について述べる。

① 改訂の方向性

2016(平成28)年12月21日に示された中央教育審議会答申においては、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習指導要領が、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる「学びの地図」としての役割を果たすことが期待されている。また、この「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、以下の6点に沿って枠組みを考えていくことが必要となるとされている。

- 「何ができるようになるか」育成を目指す資質・能力
- 「何を学ぶか」教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成
- 「どのように学ぶか」各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実
- 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」子供の発達を踏まえた指導
- 「何が身に付いたか」学習評価の充実
- 「実施するために何が必要か」学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策

② 改訂のポイント

(1) 「何ができるようになるか」を明確化

知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育

むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等が、「(1) 知識及び技能」「(2) 思考力、判断力、表現力等」「(3) 学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。この三つの柱は、教科の目標の中に位置付けられると同時に、内容の構成もそれらを踏まえて整理されている。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現

選挙権年齢の引き下げなどに伴い、高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められている。そのため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要とされている。

【主体的な学び】学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

【対話的な学び】生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

【深い学び】各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげる。

③ 改訂の全体像のまとめ

今回の改訂では、「何ができるようになるか」という観点で各教科等で育成を目指す資質・能力を明確化し、「何を学ぶか」という観点で各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示し、さらにそれらを「どのように学ぶか」の観点で主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の改善・充実を図ることが求められている。

2. 高等学校芸術科美術の改訂について

前述の中央教育審議会答申では、改訂の具体的な方向性として以下の三つが示されている。

- ①感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、内容の改善を図る。
- ②生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。
- ③高等学校芸術科（美術，工芸）において表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示す。

高等学校学習指導要領の芸術科（美術）は、この具体的な方向性に基づき改訂された。主な改訂の要点は、以下のとおりである。

① 目標の改善

従前では、科目の目標は一文でのみ示されていたが、新要領では一文の後に(1)～(3)の三つの文章が加えられた。目標の最初に、全体に関わる目標を柱書として“美術は何を学ぶのか”を明確にし、その後具体的に育成する資質・能力を「(1)知識及び技能」「(2)思考力、判断力、表現力等」「(3)学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に位置付けて示しており、「何ができるようになるか」ということを踏まえて、(1)(2)(3)を相互に関連させながら育成するよう指導の改善を図ることが求められている。

目標の構成は、次のように整理することができる。

新 教科の目標（平成30年）	
(柱書)造形的な視点を豊かにもち <u>I, II, IIIのちがひ</u> 美術Ⅰ：美的体験を <u>重ね</u> 、生活や社会の中の美術や美術文化と <u>幅広く</u> 関わる資質・能力の育成 美術Ⅱ：美的体験を <u>深め</u> 、生活や社会の中の美術や美術文化と <u>深く</u> 関わる資質・能力の育成 美術Ⅲ：美的体験を <u>豊かにし</u> 、生活や社会の中の <u>多様な</u> 美術や美術文化と <u>深く</u> 関わる資質・能力の育成	
(1) 知識及び技能（〔共通事項〕・創造的な技能）	造形的な視点を豊かにするために必要な知識と、表現における創造的に表す技能に関するもの。
(2) 思考力、判断力、表現力等(発想、構想・鑑賞、画力)	発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力、表現における発想や構想、鑑賞における見方や感じ方などに関するもの。
(3) 学びに向かう力、人間性等	学習に主体的に取り組む態度や美術を愛好する心情、豊かな感性や情操などに関するもの

※ 下線の種類は、資質・能力の対応関係を表している

② 内容の改善

(1) 「A表現」の改善

「A表現」の項目は、現行と同様に「(1)絵画・彫刻」、(2)デザイン」、(3)映像メディア表現」の三分野で構成している。

「A表現」の構成の概要について、現行の内容との違いを「美術Ⅰ」を例に比較すると次のとおりである。

現行 美術Ⅰ A表現（平成21年）	
項目	事項
(1) 絵画・彫刻	ア 主題の生成 イ 創造的な表現の構想 ウ 材料や用具を生かす技能 エ 創造的に表す技能
(2) デザイン	ア 主題の生成 イ 創造的な表現の構想 ウ 材料や用具を生かす技能 エ 創造的に表す技能
(3) 映像メディア表現	ア 主題の生成 イ 創造的な表現の構想 ウ 映像メディア機器等の用具を生かす技能 エ 効果的に表す技能



新 美術Ⅰ A表現（平成30年）			
項目	事項		目標との関連
	指導内容	指導事項	
(1) 絵画・彫刻	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想	(ア) 主題の生成 (イ) 創造的な表現の構想	「思考力、判断力、表現力等」
	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	(ア) 材料や用具を生かす技能 (イ) 創造的に表す技能	「技能」
(2) デザイン	ア 目的や機能などを考えた発想や構想	(ア) 主題の生成 (イ) 創造的な表現の構想	「思考力、判断力、表現力等」
	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	(ア) 材料や用具を生かす技能 (イ) 創造的に表す技能	「技能」
(3) 映像メディア表現	ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想	(ア) 主題の生成 (イ) 創造的な表現の構想	「思考力、判断力、表現力等」
	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	(ア) 映像メディア機器等の用具を生かす技能 (イ) 効果的に表す技能	「技能」

このように、今回の改訂では、「A表現」の内容が育成する資質・能力を一層明確にする観点から、各項目を「ア 発想や構想に関する資質・能力」と「イ 技能に関する資質・能力」の二つの観点に整理されている。

(2) 「B鑑賞」の改善

「B鑑賞」は「ア 美術作品などに関する鑑賞」と、「イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞」の二つに大きく分けて示された。

「ア 美術作品などに関する鑑賞」では、「A表現」の三つの分野との関連を図り、発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成することが重視されている。

一方、「イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞」では、生活や社会と文化は密接に関わっていることや、社会に開かれた教育課程を推進する観点などから、現行の美術の働きに関する鑑賞と、美術文化に関する鑑賞が大きくひとつにまとめられている。

「B鑑賞」の構成の概要について、現行の内容との違いを「美術I」を例に比較すると次のとおりである。

現行 美術I B鑑賞 (平成21年)	
項目	事項
鑑賞	ア 美術作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関する鑑賞
	イ 映像メディア表現の特質や表現の効果などに関する鑑賞
	ウ 自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きに関する鑑賞
	エ 日本の美術の歴史や表現の特質、日本及び諸外国の美術文化になどに関する鑑賞



新 美術I B鑑賞 (平成30年)			
項目	事項		関と目標 連の標
	指導内容	指導事項	
(1) 鑑賞	ア 美術作品などに関する鑑賞	(7) 感じ取ったことや考えたことなどを基にした絵画・彫刻に関する鑑賞 (4) 目的や機能を考えたデザインに関する鑑賞 (9) 映像メディア表現の特質を生かした表現に関する鑑賞	「思考力、判断力、表現力等」
	イ 美術の働きや美術文化に関する鑑賞	(7) 美術の働きに関する鑑賞 (4) 美術文化に関する鑑賞	

(3) 「共通事項」の新設

〔共通事項〕(1)は、今回の改訂で新しく設けられた事項であり、感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、「A表現」及び「B鑑賞」の学習において共通に必要な資質・能力を育成する観点から、生徒が多様な視点から造形を豊かに捉えることができるよう、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として示されている。

アは、形や色彩、材料や光などの性質や、それらが人の感情にもたらす様々な効果などについて理解すること。イは、造形的な特徴などからイメージを捉えることができるように、見立てたり心情などに関連付けたりするなど全体のイメージで捉えることを理解したり、作風や様式などの文化的な視点で捉えるということについて理解したりすることであり、アは「木を見る」、イは「森を見る」といった視点で造形を豊かに捉えられるようにすることが大切である。【参考資料】(本書P.5)の中学校学習指導要領美術科における〔共通事項〕に関する記述も踏まえて指導したい。

なお、『「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。』と示されているように、〔共通事項〕は、それのみを取り上げて題材にするものではなく、「A表現」及び「B鑑賞」のそれぞれの指導を通して身に付けることができるよう指導するものである。さらに、〔共通事項〕に示された知識は、単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではなく、生徒一人一人が表現及び鑑賞の活動の学習過程を通して、個別の感じ方や考え方等に応じながら活用し、実感を伴いながら理解を深め、生きて働く知識として身に付けるものであり、新たな学習過程を経験することを通して再構築されていくものであるとされている。

③ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養

「(3) 学びに向かう力・人間性等」については、三つの柱を相互に関連させながら育成できるように位置付けて示しており、「A表現」、「B鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で、一体的、総合的に育てていくものとされている。

〈中学校美術科〔共通事項〕〉

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

〈中学校美術科 指導計画の作成と内容の取扱いの中にある〔共通事項〕に関連する箇所〉

(1) 〔共通事項〕の指導に当たっては，生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように，以下の内容について配慮すること。

ア〔共通事項〕のアの指導に当たっては，造形の要素などに着目して，次の事項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 色彩の色味や明るさ，鮮やかさを捉えること。

(イ) 材料の性質や質感を捉えること。

(ウ) 形や色彩，材料，光などから感じる優しさや楽しさ，寂しさなどを捉えること。

(エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。

(オ) 余白や空間の効果，立体感や遠近感，量感や動勢などを捉えること。

イ〔共通事項〕のイの指導に当たっては，全体のイメージや作風などに着目して，次の事項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 造形的な特徴などを基に，見立てたり，心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。

(イ) 造形的な特徴などを基に，作風や様式などの文化的な視点で捉えること。

■ 高等学校美術・工芸と小・中学校との関連

学習指導要領

「図画工作科・美術科・芸術科」の目標

小学校「図画工作科」目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

中学校「美術科」目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

高等学校 芸術科 「美術Ⅰ」目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

「美術Ⅱ」目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

「美術Ⅲ」目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

日文の教科書

高等学校 芸術科 ◆工芸Ⅰ ◆工芸Ⅱ

・中学校美術科のデザイン・工芸分野をさらに発展、充実させた内容です。

◆高校生の美術1

・基礎・基本を学ぶ手助けになる美術史、技法・色彩についての50ページにわたる充実した資料がついています。

◆高校美術1

・中学校美術科の学習を踏まえ、基礎的、基本的事項がしっかり学習できるよう配慮しています。

◆Art and You 創造の世界へ

・「創造とは何か」をテーマに3章構成として、美術をさまざまな視点から捉えて表現や鑑賞の授業に取り組みるように配慮しています。

◆高校生の美術2

・全国で行われている授業の実態を調査し、取り組みやすい題材から応用的な題材まで豊富な事例を用意しました。

◆高校美術2

・美術の学習を通して、他者とのコミュニケーション能力が培われるように題材を工夫しました。

◆高校生の美術3

・「美術Ⅰ」「美術Ⅱ」の学びを生かしながら、作家および自分自身の個性や独創性を考えることを通して、自分らしい美術を追求できるように題材を工夫しました。

◆高校美術3

・「生涯にわたり美術を愛好する心情」「美術文化を尊重する態度」を育てるため20人の芸術家を取り上げ、人となりや生き方について学べるように工夫されています。

2020年度版 高等学校芸術科美術 内容解説資料
2020年度版 高等学校芸術科工芸 内容解説資料

116		教科書 記号・番号	
日文			
高校生の美術1 美Ⅰ-305			
高校美術1 美Ⅰ-302	高校生の美術3 美Ⅲ-304		
Art and you 創造の世界へ 美Ⅰ-303	高校美術3 美Ⅲ-302		
高校生の美術2 美Ⅱ-304	工芸Ⅰ 工Ⅰ-301		
高校美術2 美Ⅱ-302	工芸Ⅱ 工Ⅱ-301		

2019年3月15日発行
本書の無断転載・複製を禁じます。
CD22180

日本文教出版 株式会社
<http://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690